

通所リハビリテーションにおける認知症短期集中
リハビリテーションの有用性に関する調査研究事業
報告書

平成 25 年 3 月

公益社団法人 全国老人保健施設協会

はじめに

制度創設から 25 年目を迎える介護老人保健施設は、要介護高齢者の自立を支援し、居宅における生活への復帰を目指すために、医療、看護や介護、リハビリテーションなどの多機能で質の高いサービスを多職種からなるチームで提供してきた。また、地域に根ざした施設として、家族や地域住民との交流はもとより、市町村自治体や各種事業者、保健・医療・福祉機関などと連携し、地域と一体となったケアを積極的に担ってきたところである。

こうした中、平成 24 年度介護報酬改定において、介護老人保健施設では特に在宅復帰支援型の施設としての機能強化という観点により、基本サービス費に在宅強化型・療養強化型といった類型が新設されたとともに、在宅復帰・在宅療養支援機能加算をはじめ、短期集中リハビリテーション実施加算、ターミナルケア加算、入所前からの計画的な支援等に対する評価、医療ニーズへの対応強化、認知症への対応強化等の見直しが行われた。

介護老人保健施設が地域包括ケアシステムの中心として社会から期待されている役割・機能を果たしていくためには、サービスの質の維持・向上とともに、関連する諸制度の充実が望まれる。そのためには、地域の特性や利用者の多様なニーズ、状態像等を踏まえた調査・研究を行い、現場の実態に基づいた詳細なデータによって、ケアのあり方や諸制度について具体的な提言を行っていく努力が欠かせない。

全国老人保健施設協会では、平成 24 年度老人保健事業推進費等補助金事業において以下の 6 件の調査研究事業を実施した。ここに、各調査研究事業の報告書（6 冊分）をとりまとめたので報告する。

1. 介護老人保健施設における在宅復帰・在宅療養支援を支える医療のあり方に関する調査研究事業
2. 生活期リハビリテーションによる効果判定のための評価表の作成とその試行に関する調査研究事業
3. 介護老人保健施設における協力歯科医療機関等との連携状況に応じた口腔関連サービスの提供実態に関する調査研究事業
4. 通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーションの有用性に関する調査研究事業
5. 介護老人保健施設における災害支援体制整備と災害派遣ケアチーム J C A T による人材育成等に関する調査研究事業
6. 介護老人保健施設における新ケアマネジメント方式（R4 方式）の在宅復帰率・回転率への影響に関する調査研究事業

これら調査研究の成果が、介護老人保健施設の関係者をはじめ、高齢者の生活を支える方々の取り組みの参考となり、高齢者の尊厳の保持と質の高いサービスの提供のための一助となることを願うものである。

平成 25 年 3 月

公益社団法人全国老人保健施設協会 会長 木川田 典彌

目 次

調査研究の目的	1
調査研究のフロー	2
研究班名簿	3
1. 実態調査の概要	4
2. 認知症短期集中リハビリテーションの効果に関する解析結果	7
3. 解析結果のまとめ	41
4. 本年度調査のローデータ	42
5. まとめ	45
参考 調査票等	47

調査研究の目的

本調査は、平成 18～22 年度の調査研究事業において、介護老人保健施設の入所者に対して対照群を設定した介入調査研究により、認知症短期集中リハビリテーションは認知機能の維持改善のみならず、認知症の BPSD に対しても改善効果があることを明らかにしてきた。

さらに、平成 22 年度の同事業において、認知症短期集中リハビリテーション実施後の小集団による継続的な認知症リハビリテーションが有効であることも実証した。

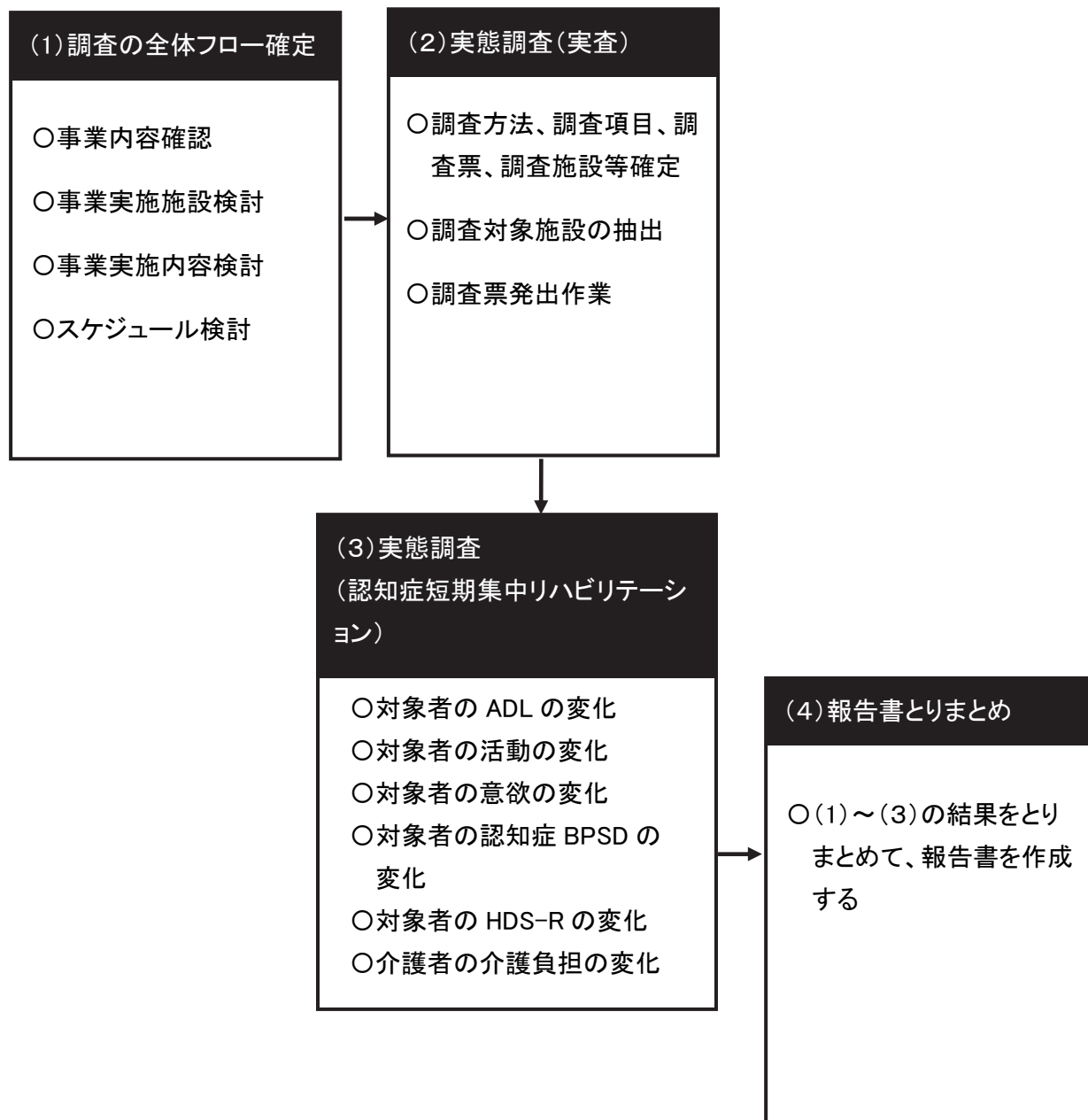
また、平成 23 年度の研究においては、それまでの研究方法を踏襲した介入調査により、通所リハビリテーションにおいて認知症短期集中リハビリテーションは軽度の認知症に対して ADL の改善、BPSD の軽減および意欲の向上をもたらすことが示唆された。

これらの成果を受け、本年度は、介護老人保健施設の通所リハビリテーションにおいて、認知症短期集中リハビリテーションの在宅における介護負担軽減効果について検証し、その有用性を検討する。

あわせて、通所リハビリテーション以外のサービス併用の実態を調査することによって地域連携の様子を探り、認知症に相応しいケアの在り方も検討することとした。

調査研究のフロー

調査研究は、以下のようなフローに基づいて行った。

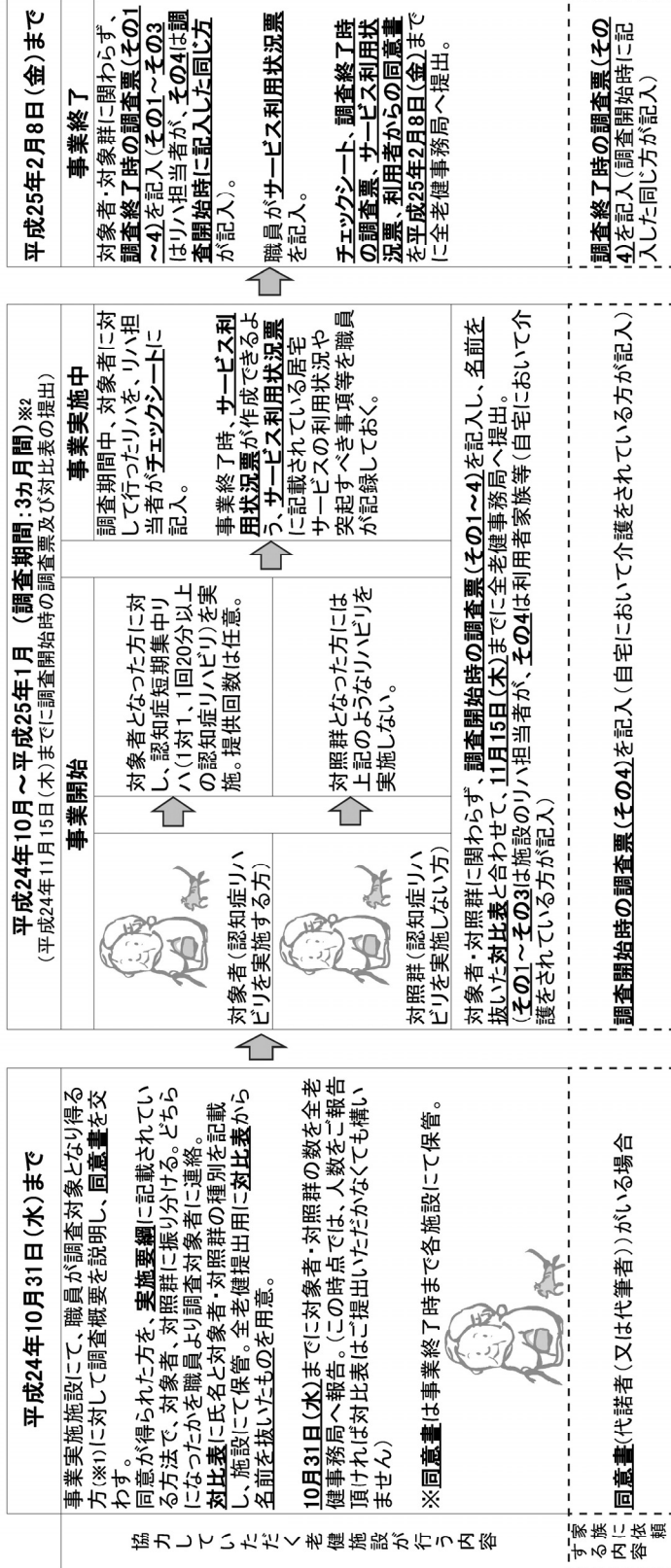


研究班名簿

	班員名	施設名	役職
研究事業班長	鳥羽 研二	独立行政法人国立長寿医療研究センター	病院長
班員	大河内 二郎	介護老人保健施設竜間之郷	施設長
班員	金澤 江吏子	介護老人保健施設鴻池荘	課長補佐
班員	神崎 恒一	杏林大学医学部高齢医学	教授
班員	齊藤 正身	医療法人真正会霞ヶ関南病院	理事長
班員	櫻井 孝	独立行政法人国立長寿医療研究センター	もの忘れ外来 部長
班員	佐藤 龍司	介護老人保健施設しょうわ	理事長
班員 (担当役員)	東 憲太郎	介護老人保健施設いこいの森	理事長
班員	山口 晴保	群馬大学大学院保健学研究科	教授

1. 実態調査の概要

実態調査は以下のような手順で実施した。



※1 本事業の対象となる方
本事業の対象となる方は以下の全てを満たす方です。(認知症短期集中リハビリテーションの算定要件を満たさなくとも、本事業の対象にはなりません。)

- ① 貴施設の通所リハビリテーション利用者
- ② 認知症を有する方(認知症のレベルは問いません)
- ③ 調査開始時点において、認知症短期集中リハビリテーションを行っていない方
- ④ 一人暮らしではない方(自宅において家族等に介護を受けている方)

以下の方は本事業の調査対象にはなりません。
 ・調査開始時点、既に通所リハビリテーションの認知症短期集中リハビリテーションを実施している方(加算の有無を問わず)
 ・過去3か月間の間に認知症短期集中リハビリテーションを実施した方(加算の有無を問わず)

※2 調査期間中について

- ・対象者に提供する認知症短期集中リハの提供回数は任意です。
- ・入所、入院、転居等、通所リハの実施の目的が立たなくなったり、終了時点の調査票を記入の上、ご提出ください。
- ・調査期間中に短期入所の利用・入院等で一時的に通所リハを中断した場合も、再び通所リハを利用する見込みがある場合は引き続き調査を行ってください。
- ・調査期間中に通所リハ以外のサービス(短期入所等)は利用可としますが、24日以上利用した時点で終了とし、終了時点の調査票を記入の上ご提出ください。

実態調査で取得する評価指標については、平成 18～20 年度「認知症短期集中リハビリテーション実態調査」、平成 21 年度「認知症高齢者における維持期のリハビリテーションの効果的かつ適切な提供方法に関する調査研究事業」、平成 22 年度「認知症短期集中リハビリテーション提供後の継続的な認知リハビリテーションの効果に関する調査研究事業」、平成 23 年度「軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査研究事業」を踏襲して、以下の各項目とした。

- HDS-R、MMSE (Mini-Mental State Examination) …認知機能
- DBD13…BPSD (Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia)
- Vitality Index (意欲の指標) …意欲
- NM スケール…記憶、見当識、会話
- ADL (Barthel Index)
- 社会活動 5 項目
- 介護負担

なお、認知症短期集中リハビリテーション介入群（認知症リハビリテーションを実施する方。なお、調査票表記は対象者）については、3 ヶ月の調査期間中にどのようなリハビリテーション内容を実施したか下記の項目を複数選択で回答してもらった。

- 見当識訓練
- 学習（訓練）療法
- 記憶の訓練
- 作業療法
- 運動療法
- 回想法

調査参加施設は、平成 23 年度「軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査研究事業」協力施設および「介護老人保健施設における入所・短期入所リハビリテーションがもたらす在宅復帰・在宅生活支援に関する調査研究事業」で認知症短期集中リハビリテーションを実施していると回答した合計 352 施設に協力依頼を FAX し、協力できるとの回答を得ることができた 62 施設宛に調査票を送付した。最終的には 20 施設から有効回答票を得た。

調査期間は平成 24 年 10 月～平成 25 年 1 月の間とした。調査票は、平成 18～23 年度で使用した調査票を若干修正したものを使用した。認知症短期集中リハビリテーションの介入群及び対照群（認知症リハビリテーションを実施しない方）の設定は、各施設に依頼して無作為に群分けした。

<参考 1>

本調査は、(公社)全国老人保健施設協会の学術倫理委員会における審査を経て実施された。

学術倫理委員会承認日 平成24年9月28日

承認番号 全老健第24-310号

<参考 2>

有意差の検定については、特に断りのない場合、統計ソフト(エクセル統計 2012)の「対応する2群に関するt検定」を用いている。

2. 認知症短期集中リハビリテーションの効果に関する解析結果

(1) 解析対象者数

通所リハビリテーション実施者のうち、認知症短期集中リハビリテーションを実施する層（介入群）と実施しない層（対照群）に分けて、3ヶ月の変化を見た。介入群は52名、対照群は41名であった。なお、介入群と対照群の振り分けは、各施設に依頼して無作為に群分けした。

(2) 解析対象者の調査開始時の状態

解析対象者の調査対象時の指標は下表のとおりである。各項目において、介入群と対照群とに差は見られなかった。

	介入群 (認知症短期集中 リハ実施者) (n=52)	対照群 (n=41)	有意差
HDS-R	13.6±6.073	14.7±7.550	ns
ADL	18.9±6.903	17.5±7.108	ns
社会活動	9.3±3.451	8.4±3.710	ns
意欲	7.8±2.064	8.2±2.088	ns
DBD13	7.3±6.342	6.1±4.951	ns
NM スケール	26.2±10.088	27.2±9.549	ns
MMSE	17.6±5.105	16.9±6.609	ns

※有意差検定は、介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）と対照群について t 検定を行った結果である。

(3) 開始時データと終了時データの変化

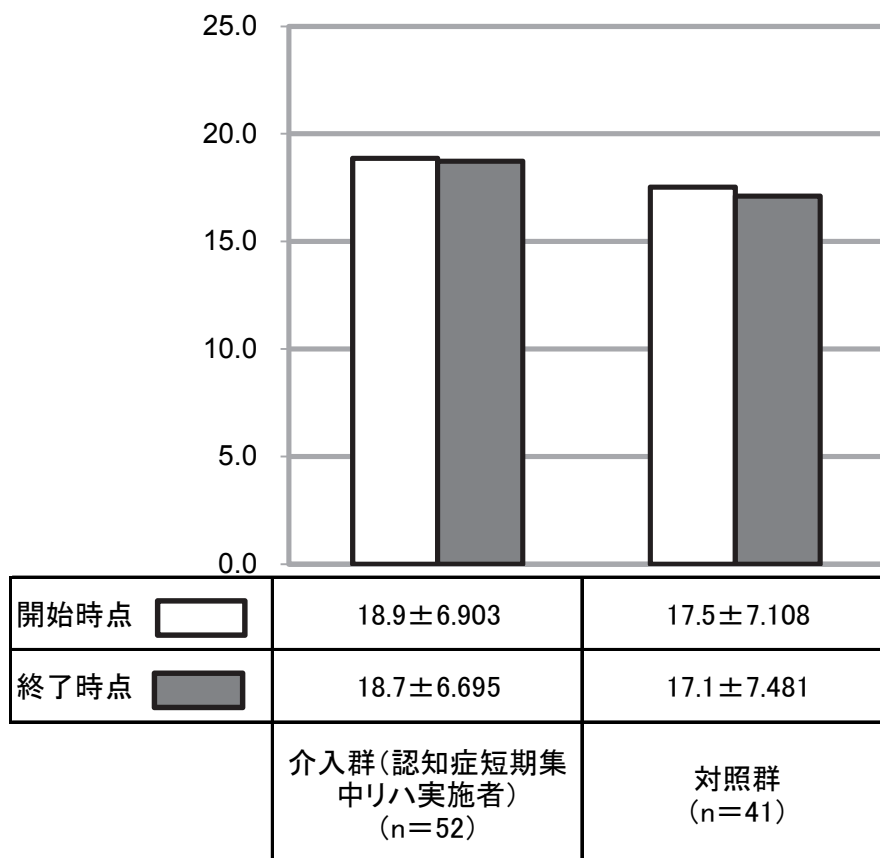
以下、今回の調査で得られた解析結果を紹介する。これらは認知症短期集中リハビリテーション開始時点における初回データと3ヶ月後の終了時点で得られたデータを比較・解析したものである。

① ADL

ADLは、基本的ADLとしてBarthel Indexの10項目をスコア化して解析した（下表参照）。

	自立	見守り	一部介助	全介助
① トイレへの移動・行為	3	2	1	0
② 車イスへの移動	3	2	1	0
③ 階段昇降	3	2	1	0
④ 歩行	3	2	1	0
⑤ 食事	3	2	1	0
⑥ 排泄（尿）	3	2	1	0
⑦ 排泄（便）	3	2	1	0
⑧ 整容	3	2	1	0
⑨ 更衣	3	2	1	0
⑩ 入浴	3	2	1	0

解析の結果、介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）・対照群ともに有意な差が見られなかった。

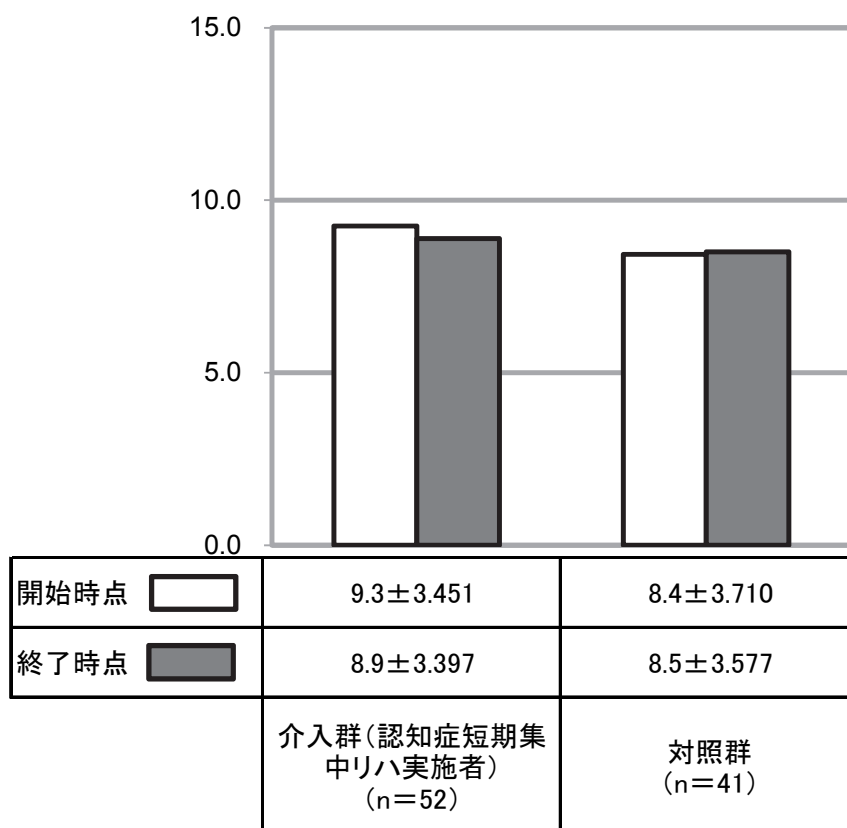


②社会活動

社会活動は、「職員との会話」、「他通所者との会話」、「身の回りの片付け」、「リクリエーション」、「外出」の5項目をスコア化して解析した（下表参照）。

	自立	見守り	一部介助	全介助
① 職員との会話	3	2	1	0
② 他通所者との会話	3	2	1	0
③ 身の回りの片付け	3	2	1	0
④ リクリエーション	3	2	1	0
⑤ 外出	3	2	1	0

解析の結果、介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）・対照群ともに有意な差は見られなかった。

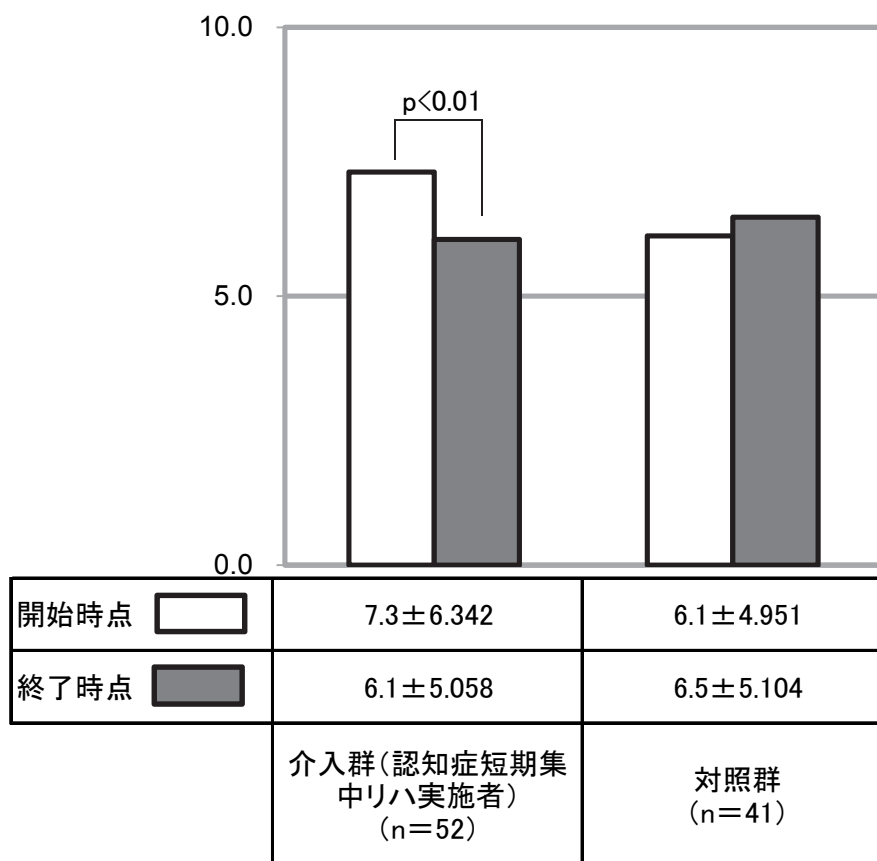


③BPSD

BPSD は、DBD13（認知症行動障害尺度）の13項目をスコア化して解析した（下表参照）。

	常に	よくある	ときに	ない
①物をなくす、置き場所を間違える、物を隠す	3	2	1	0
②昼間寝てばかりいる	3	2	1	0
③介護拒否	3	2	1	0
④同じことを何度も訊く	3	2	1	0
⑤暴言	3	2	1	0
⑥言いがかりをつける	3	2	1	0
⑦場違いな、季節外れの服装をする	3	2	1	0
⑧物をため込む	3	2	1	0
⑨日常的な物事に関心を示さない	3	2	1	0
⑩昼夜逆転	3	2	1	0
⑪同じ動作をいつまでも繰り返す	3	2	1	0
⑫物を散らかす	3	2	1	0
⑬徘徊	3	2	1	0

解析の結果、介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）は有意な改善（ $p < 0.01$ ）が認められた。対照群は有意な差が見られなかった。



BPSD の下位項目について改善比較を行ったところ、介入群において、「物をなくす、置き場所を間違える、物を隠す」、「同じことを何度も訊く」、「言いがかりをつける」、「場違いな、季節外れの服装をする」、「日常的な物事に関心を示さない」、「徘徊」について、有意な改善が認められた。

認知症短期集中リハビリテーション実施前後における BPSD (DBD13) 下位項目の改善比較 (Wilcoxon 順位和検定)

	介入群 (認知症短期集中リハ実施者) (n=52)				対照群 (n=41)			
	改善	不変	悪化	p	改善	不変	悪化	p
物をなくす、置き場所を間違える、物を隠す	9	41	2	p<0.05	2	35	4	ns
昼間寝てばかりいる	3	46	3	ns	0	35	6	ns
介護拒否	3	49	0	ns	2	35	4	ns
同じことを何度も訊く	5	47	0	p<0.05	3	37	1	ns
暴言	4	48	0	ns	1	37	3	ns
言いがかりをつける	5	47	0	p<0.05	1	38	2	ns
場違いな、季節外れの服装をする	6	46	0	p<0.05	1	39	1	ns
物をため込む	2	47	3	ns	1	39	1	ns
日常的な物事に関心を示さない	9	41	2	p<0.05	4	33	4	ns
昼夜逆転	4	45	3	ns	0	41	0	ns
同じ動作をいつまでも繰り返す	6	44	2	ns	1	37	3	ns
物を散らかす	3	49	0	ns	0	40	1	ns
徘徊	6	46	0	p<0.05	0	40	1	ns

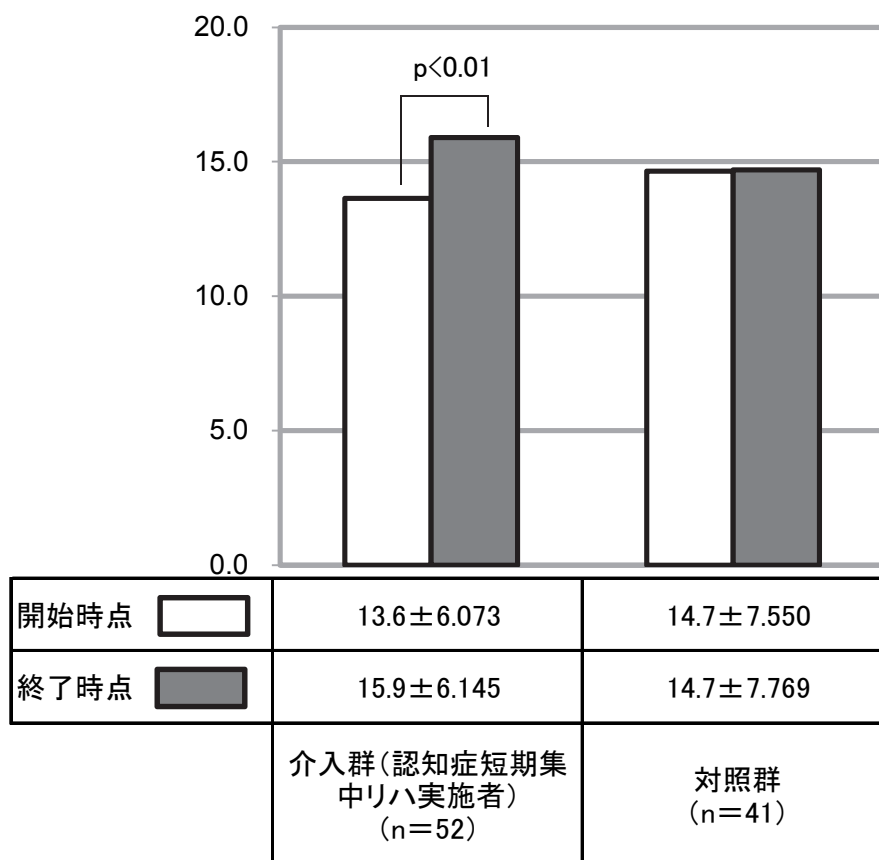
④認知機能

1) HDS-R (改訂長谷川式簡易知能評価スケール)

認知機能について、HDS-R (改訂長谷川式簡易知能評価スケール) のスコアで解析した (下表参照)。

改訂長谷川式スケール		点数	
1. 年齢	お歳はいくつですか？(2年までの誤差は正解)		0 1
2. 日時の見当識	今日は何年の何月何日ですか？何曜日ですか？(年、月、日、曜日が正解でそれぞれ1点づつ)	年	0 1
		月	0 1
		日	0 1
		曜日	0 1
3. 場所の見当識	私たちが今いるところはどこですか？(自発的にできれば2点 5秒おいて、家ですか？ 病院ですか？ 施設ですか？の中から正しい選択をすれば1点)		0 1 2
4. 3つの言葉の記銘	これから言う3つの言葉を言ってみてください。あとでまた聞きますのでよく覚えておいてください。 (以下の系列のいずれか1つで、採用した系列に○印をつけておく) 1:a) 桜 b) 猫 c) 電車 2:a) 梅 b) 犬 c) 自転車		0 1
			0 1
			0 1
5. 計算	100から7を順番に引いてください。 (「100引く7は？ それからまた7を引くと？」と質問する。最初の答えが不正解の場合は打ち切る) 「60…なんぼ…？」	(93)	0 1
		(86)	0 1
6. 数字の逆唱	私がこれから言う数字を逆から言ってみてください。「全然わからんな」 (6-8-2, 3-5-2-9を逆に言ってもらう。3桁逆唱に失敗したら打ち切る)	2-8-6	0 1
		9-2-5-3	0 1
7. 遅延再生	先ほど覚えてもらった言葉をもう一度言ってみてください。 (自発的に回答があれば各2点。 もし回答がない場合以下のヒントを与え、正解であれば1点) a) 植物 b) 動物 c) 乗り物	a:	0 1 2
		b:	0 1 2
		c:	0 1 2
8. 物品記銘	これから5つの品物を見せます。それを隠しますので何があったか言ってみてください。(時計、鍵、タバコ、ペン、硬貨など必ず相互に無関係なもの)		0 1 2
			3 4 5
9. 言葉の流暢性	知っている野菜の名前をできるだけ多く言ってみてください。 (答えた野菜の名前を右欄に記入する。途中で詰まり、約10秒間待っても出ない場合にはそこで打ち切る) 0~5=0点、6=1点、7=2点、8=3点、9=4点、10=5点		0 1 2
			3 4 5
計			

解析の結果、介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）は有意な改善（ $p < 0.01$ ）が認められた。対照群は有意な差が見られなかった。

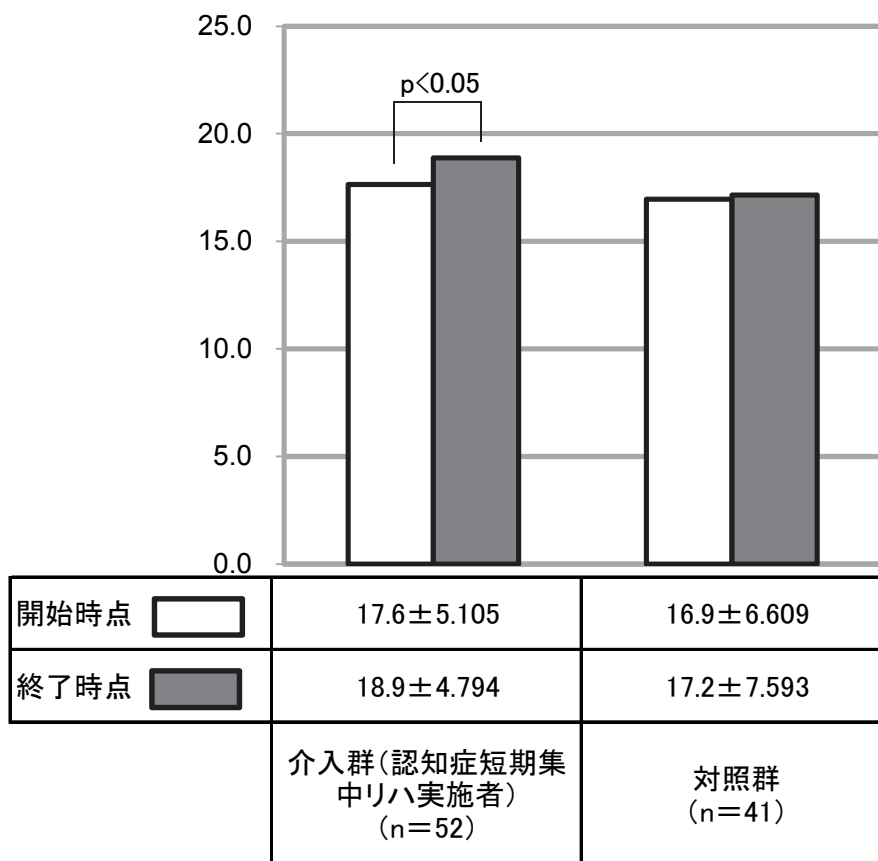


2) MMSE

認知機能について、MMSE の 11 項目をスコア化して解析した（下表参照）。

MMS (Mini-Mental State)		点数
1 見当識(5点)	今年は何年ですか 今日は何月ですか 今日は何日ですか 今の季節は何ですか 今日は何曜日ですか	
2 見当識(5点)	ここは何県ですか ここは何市ですか ここの施設名は何ですか ここは何階ですか ここは何地方ですか	
3 記名(3点)	ゆっくりと、互いに関連のない3語、たとえば「みかん、電車、サル」といつてきかせ、直後にその通りに繰り返して言えば3点とします。その単語を覚えておくようにいいます。	
4 計算(5点)	100から順々に、7を引くことを5回繰り返させる (93 86 79 72 65)	
5 想起(3点)	約5分たってから、「さっきいった三つの言葉を思い出して教えてください」と尋ねます。正しく3つ思い出せれば、3点とします。	
6 命名(2点)	時計を見せて、これは何ですかと聞く 鉛筆を見せて、これは何ですかと聞く	
7 復唱(1点)	「ちりもつもれば、やまとなる」をゆっくりいって、同じように繰り返すように言います。	
8 三段階口頭命令(3点)	紙切れを机の上に並べておいてから、ゆっくり指示します 「右手でこの紙を取ってください」 「それを半分に折りたたんでください」 「机の上に置いてください」	
9 書字命令(1点)	「目を閉じてください」とかいてある紙を見せて、その通りを動作でやれるかどうかをみます。	
10 文章(1点)	なにか文章を書いてくださいと指示します。	
11 図形(1点)	下の図を、手本として示して、それをみながら、同じ図を描いてもらいます。 	
計		

解析の結果、介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）は改善が認められた。介入群は有意な差は見られなかった。

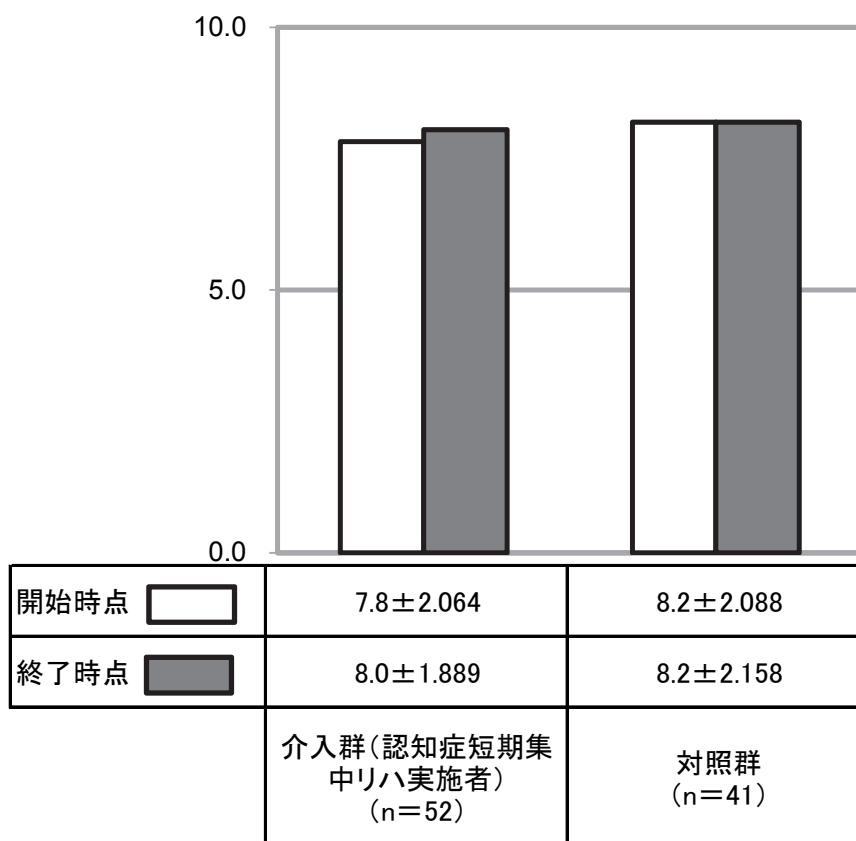


⑤ 意欲

意欲は、Vitality Index の 5 項目をスコア化して解析した（下表参照）。

	自発的	促し	無関心
① 起床	2	1	0
② 挨拶	2	1	0
③ 食事	2	1	0
④ 排泄	2	1	0
⑤ リハビリテーション、レクリエーション	2	1	0

解析の結果、介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）・対照群ともに有意な差が見られなかった。

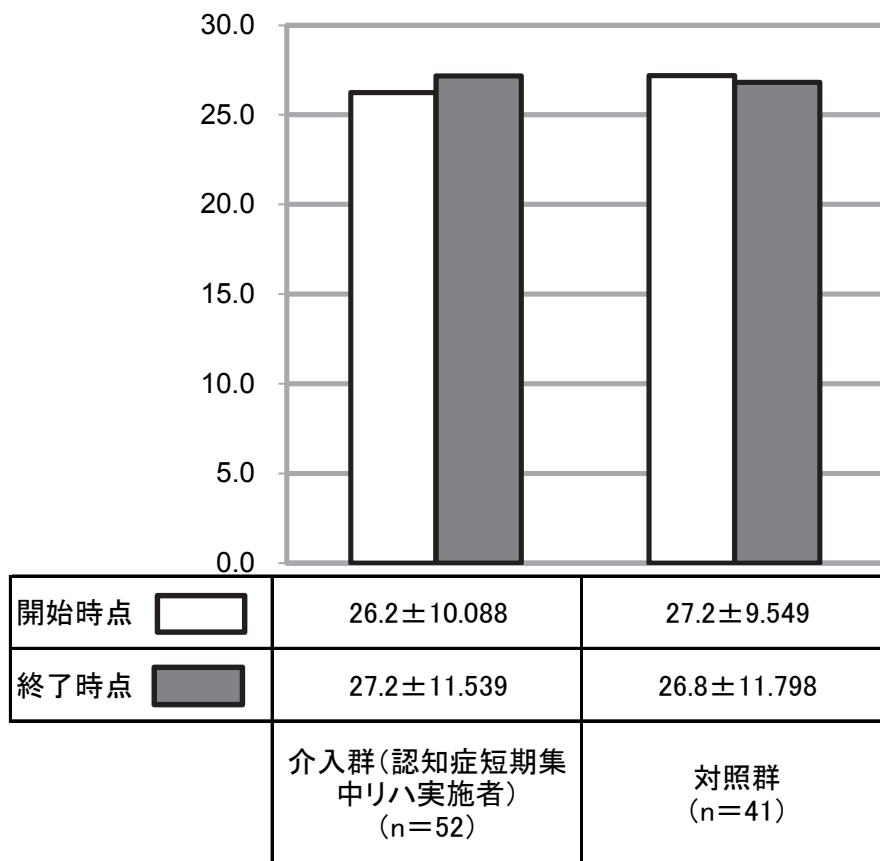


⑥ 臨床的認知症重症度

臨床的認知症重症度は、NM スケールをスコア化して解析した（下表参照）。

NMスケール	0点	1点	3点	5点	7点	9点	10点	点数
1. 家事・身辺整理	不能	殆ど不能 ・手の届く範囲の物を取れる	ごく簡単な家事、整理も不完全 ・おしほりを渡せば顔を拭くことは出来る	簡単な買い物も不確か、ごく簡単な家事、整理のみ ・声がけにて、ペット周辺の整理ができる	簡単な買い物可能 留守番、複雑な家事、整理は困難 ・食器が洗える ・エレベーターの操作が一人で可能	やや不確実だが買い物、留守番家事などを一応まかせられる ・部屋のそうじ、自分の衣類の整理ができる	正常	
2. 関心・意欲・交流	無関心、全く何もしない	周囲に多少関心あり ぼんやりと無為に過ごすことが多い	自らは何もしないが指示されれば簡単なことはしようとする ・手渡せば雑誌のグラビア等を見る	習慣的なことはある程度自らす、気が向けば人に話しかける ・話しかけられれば話ははずむ ・声がけにて行事に参加する	運動、家事、仕事、趣味など気が向けばする 必要なのは自ら話しかける	やや積極性の低下がみられるがほぼ正常 ・周囲の人と雑談ができる ・趣味を持っている ・家族や同室者の行動を知っている		
3. 会話	呼びかけに無反応	呼びかけに一応反応するが、自ら話すことはない	ごく簡単な会話のみ可能 辻つまの合わないことが多い ・有難う、ごちそうさま、おはよう等が言える	簡単な会話は可能であるが、辻つまが合わないことがある	話し方はなめらかではないが、簡単な会話は通じる ・相手の話が理解できる	日常会話はほぼ正常、複雑な会話がやや困難		
4. 記銘・記憶	不能	新しいことは全く覚えられない 古い記憶が稀にある ・名前が言える	最近の記憶は殆どない、古い記憶が多少残存 生年月日不確か 出生地を覚えている	最近の出来事の記憶困難 古い記憶の部分欠落 ・生年月日正答	最近の出来事をよく忘れる、古い記憶はほぼ正常 ・物をしまい忘れて騒ぐ ・服薬の自己管理が難しい	最近の出来事とときどき忘れる 一人で受診できるが診察日を時に忘れる		
5. 見当識	全くなし	殆どなし 人物の弁別困難 ・男女の区別は出来る	失見当識著明 家族と他人は区別出来るが誰であるかわからない ・自分の年齢をかけ離れた歳で答える	失見当がかなりあり(日時、年齢場所など不確か道に迷う) ・看護婦、医者、養母の見分けが出来る	ときどき場所を間違えることあり ・目的の場所へ行こうとするが時に迷う	ときどき日時を間違えることあり		
計								

解析の結果、介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）、対照群ともに有意な差が見られなかった。

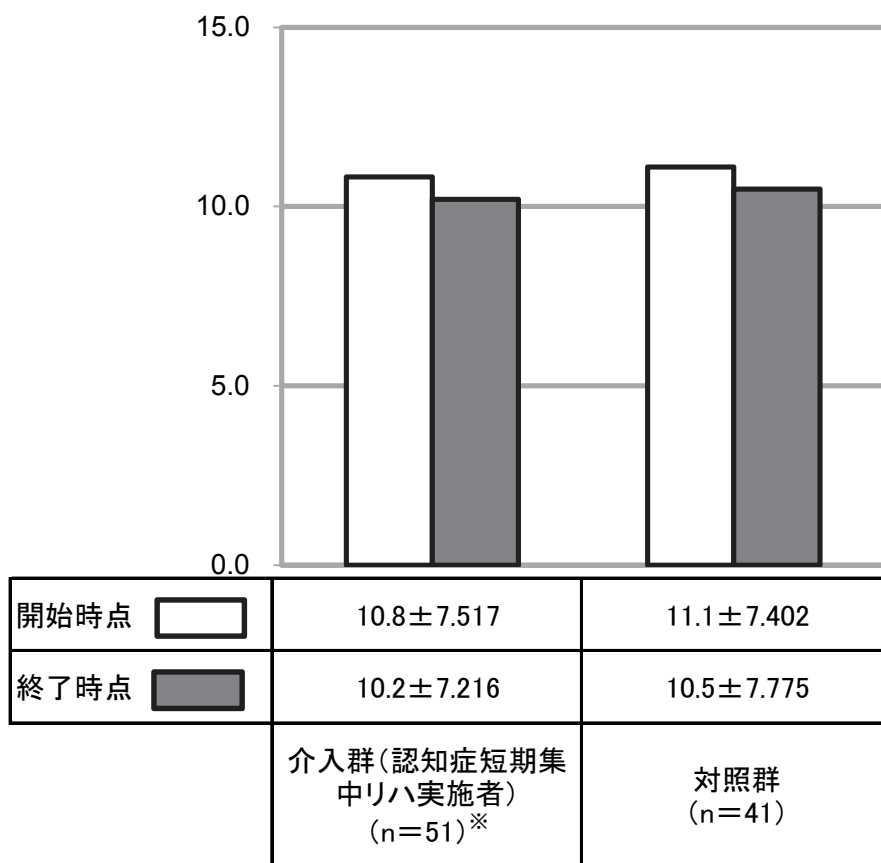


⑦ 介護負担

介護負担は、8項目をスコア化して解析した（下表参照）。

	思わない	たまに思 う	時々 思う	よく 思う	いつも 思う
① 介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうことがありますか	0	1	2	3	4
② 介護を受けている方のそばにいと腹が立つことがありますか	0	1	2	3	4
③ 介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか	0	1	2	3	4
④ 介護を受けている方のそばにいと、気が休まらないと思いますか	0	1	2	3	4
⑤ 介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことがありますか	0	1	2	3	4
⑥ 介護を受けている方が家族にいと、友達を自宅によびたくてもよべないと思ったことがありますか	0	1	2	3	4
⑦ 介護をだれかに任せてしまいたいと思うことがありますか	0	1	2	3	4
⑧ 介護を受けている方に対して、どうしていいかわからないと思うことがありますか	0	1	2	3	4

解析の結果、介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）、対照群ともに有意な差が見られなかった。



※介入群のうち、終了時の調査票（その4）がないものが1名あったため、n=51となった。

介護負担の下記項目について改善比較を行ったところ、⑧の「介護を受けている方に対して、どうしていいかわからないと思うことがありますか」について介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）は改善が認められた。対照群は有意な差は見られなかった。

	介入群 (認知症短期集中リハ実施者) (n=51)			対照群 (n=41)		
	開始時	終了時	有意差	開始時	終了時	有意差
Personal strain (①、②、④、⑦、⑧)	7.5	6.8	ns	7.9	7.2	ns
Role strain (③、⑤、⑥)	3.3	3.4	ns	3.2	3.4	ns
①介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうことがありますか	1.8	1.6	ns	1.8	1.7	ns
②介護を受けている方のそばにいると腹が立つことがありますか	1.5	1.5	ns	1.5	1.4	ns
③介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか	1.1	1.1	ns	1.2	1.2	ns
④介護を受けている方のそばにいると、気が休まらないと思いますか	1.6	1.5	ns	1.8	1.6	ns
⑤介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことがありますか	1.3	1.3	ns	1.1	1.1	ns
⑥介護を受けている方が家族にいたので、友達を自宅によびたくてもよべないと思ったことがありますか	0.9	1.0	ns	1.0	1.1	ns
⑦介護をだれかに任せてしまいたいと思うことがありますか	1.1	1.1	ns	1.5	1.3	ns
⑧介護を受けている方に対して、どうしていいかわからないと思うことがありますか	1.5	1.2	p<0.05	1.2	1.2	ns

※Personal strain…………… 介護を必要とする状況（または事態）に対する否定的な感情の程度

Role strain…………… 介護によって（介護者の）社会生活に支障をきたしている程度

(4) 調査期間に実施された認知症短期集中リハビリテーションの内容とその効果

① 調査期間において実施された認知症短期集中リハビリテーションの内容

3 ヶ月間の調査期間において実施された認知症短期集中リハビリテーションの回数は49人の介入群(認知症短期集中リハビリテーション実施者)に対して970回であり、1人平均19回であった。

※調査票：リハビリテーションチェックシートがない者が3名のためサンプル数49となった。

3 ヶ月の調査期間において実施された認知症短期集中リハビリテーションの内容を目的別にみると以下のとおりである。

		認知症短期集中リハの実際の活動							合計
		見当識訓練	学習(訓練)療法	記憶の訓練	作業療法	運動療法	回想法	その他	
目的	見当識の向上	592	456	304	80	210	59	77	1778
	記憶力の改善	315	259	303	55	120	75	55	1182
	注意・集中力の改善	515	516	260	91	205	68	123	1778
	気分の発散	128	118	77	41	143	74	57	638
	その他	30	-	53	90	147	63	138	521
	合計	1580	1349	997	357	825	339	450	5897

② ADL 等における効果

介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）について、ADL 等の改善比較を行ったところ、下記の結果が得られた。

- 見当識訓練を受けたグループでは、HDS-R、MMSE において改善が認められた。
- 学習（訓練）療法を受けたグループでは、DBD13、HDS-R、MMSE において改善が認められた。
- 記憶の訓練を受けたグループでは、社会活動において改善が認められた。
- 作業療法を受けたグループでは、DBD13、HDS-R、MMSE において改善が認められた。
- 運動療法を受けたグループでは、DBD13 において改善が認められた。
- 回想法を受けたグループでは、DBD13、HDS-R、MMSE、NM スケールにおいて改善が認められた。
- その他を受けたグループでは、DBD13 において改善が認められた。

<介入群>

	ADL	社会活動	意欲	DBD13	HDS-R	MMSE	NMスケール
見当識訓練 (n=32)	ns	ns	ns	ns	p<0.01	p<0.01	ns
学習（訓練）療法 (n=30)	ns	ns	ns	p<0.05	p<0.01	p<0.05	ns
記憶の訓練 (n=26)	ns	p<0.05	ns	ns	ns	ns	ns
作業療法 (n=16)	ns	ns	ns	p<0.05	p<0.01	p<0.05	ns
運動療法 (n=20)	ns	ns	ns	p<0.05	ns	ns	ns
回想法 (n=21)	ns	ns	ns	p<0.05	p<0.05	p<0.05	p<0.05
その他 (n=13)	ns	ns	ns	p<0.05	ns	ns	ns

介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）について、ADL 等の改善比較を
 実際に行われたリハビリテーション技法数で行ったところ、下記の結果が得られた。

- 1～2種のグループでは、DBD13、HDS-Rにおいて改善が認められた。
- 3種のグループでは、HDS-Rにおいて改善が認められた。
- 4種以上のグループでは、MMSEにおいて改善が認められた。

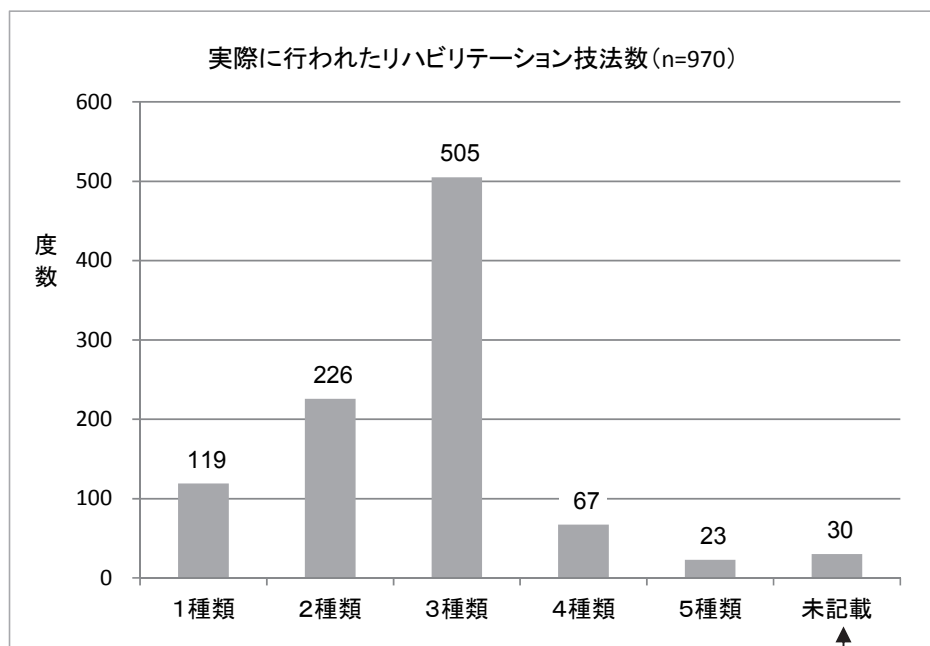
<介入群>

	ADL	社会活動	意欲	DBD13	HDS-R	MMSE	NMスケール
1～2種 (n=11)	ns	ns	ns	p<0.05	p<0.05	ns	ns
3種 (n=15)	ns	ns	ns	ns	p<0.01	ns	ns
4種以上 (n=20)	ns	ns	ns	ns	ns	p<0.05	ns

③ 認知症短期集中リハビリテーションの実施状況に関する分析（1）

認知症短期集中リハビリテーションの実施状況について、データを分析した結果は以下のとおりである。

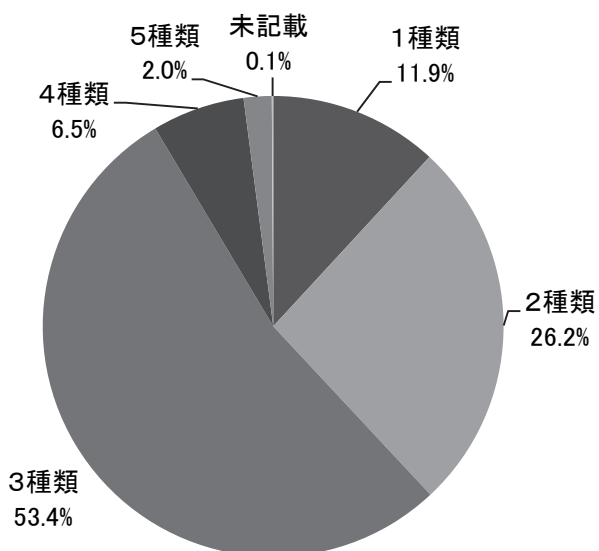
- ✓ 実際に行われたリハビリテーション技法数は3種類が最も多い。



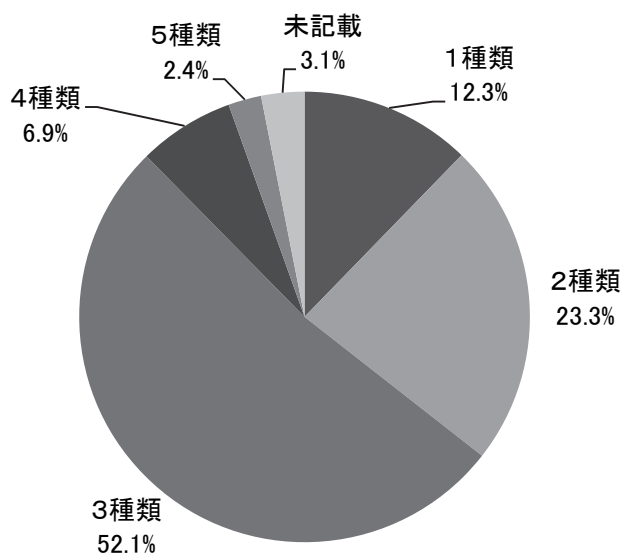
（注）未記載は、実施リハビリテーション欄が空欄であり、記入漏れと想定されるが、利用者の拒否等何らかの理由で予定されたリハビリテーションが行われなかったケースも考えられる。

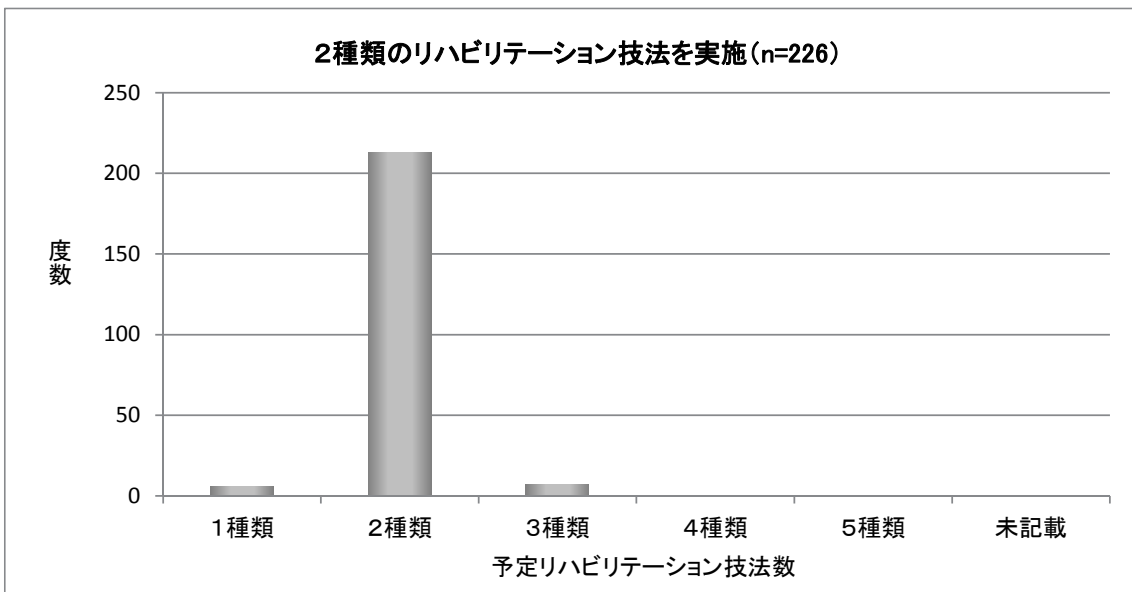
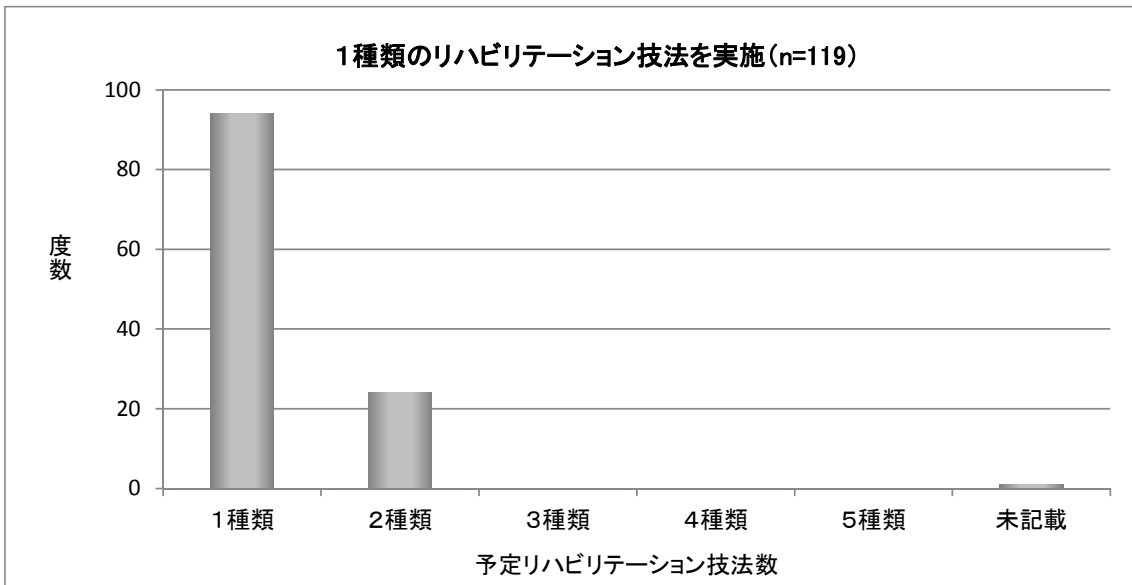
計画されたリハビリテーション技法数、実際に行われたリハビリテーション技法数ともに、3種類が最も多い。

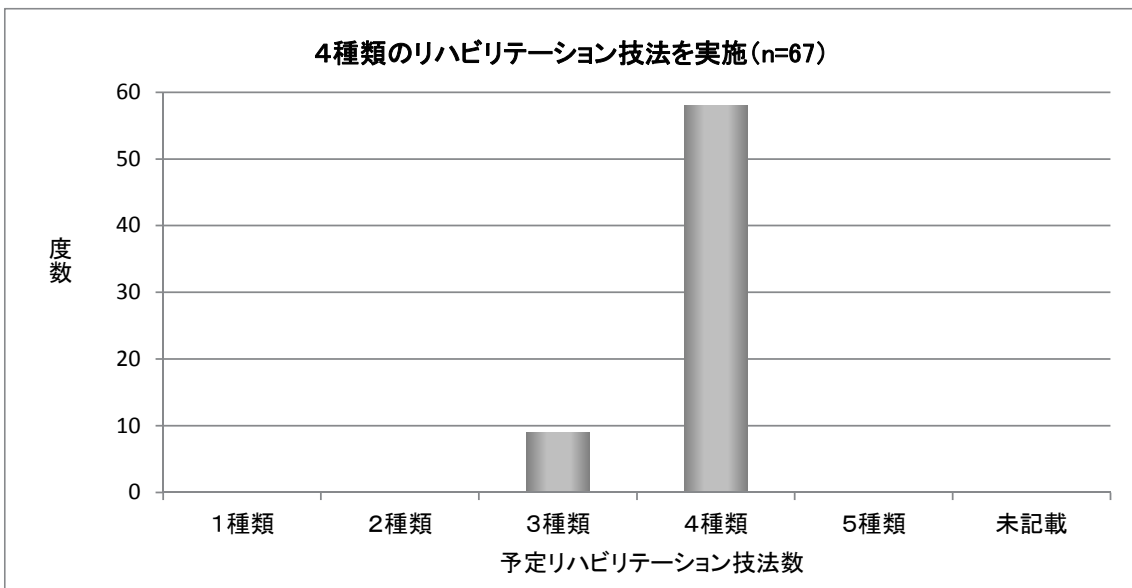
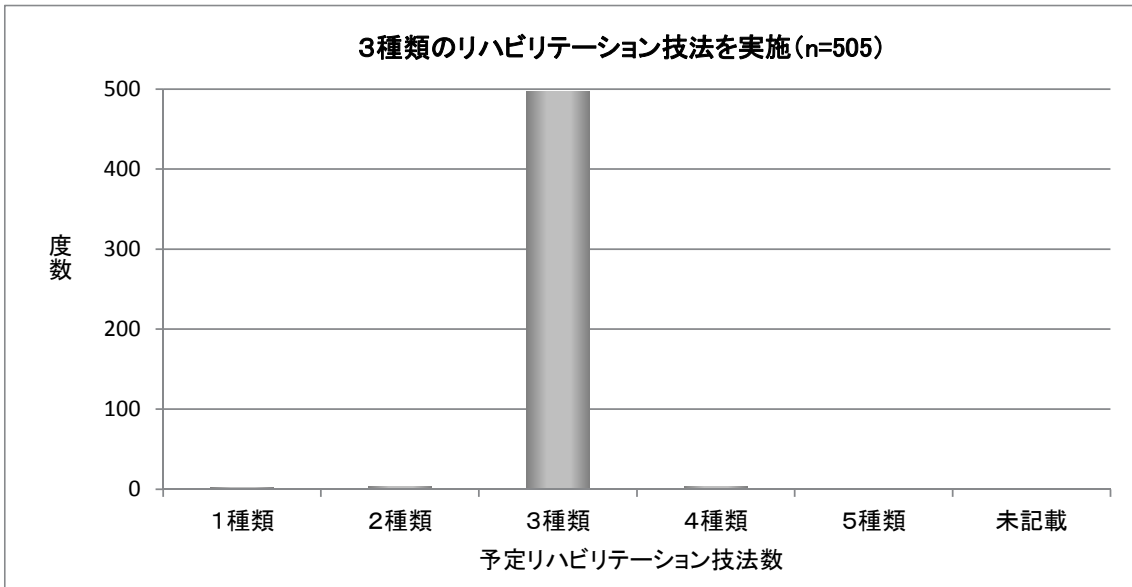
計画されたリハビリテーション技法数(n=970)

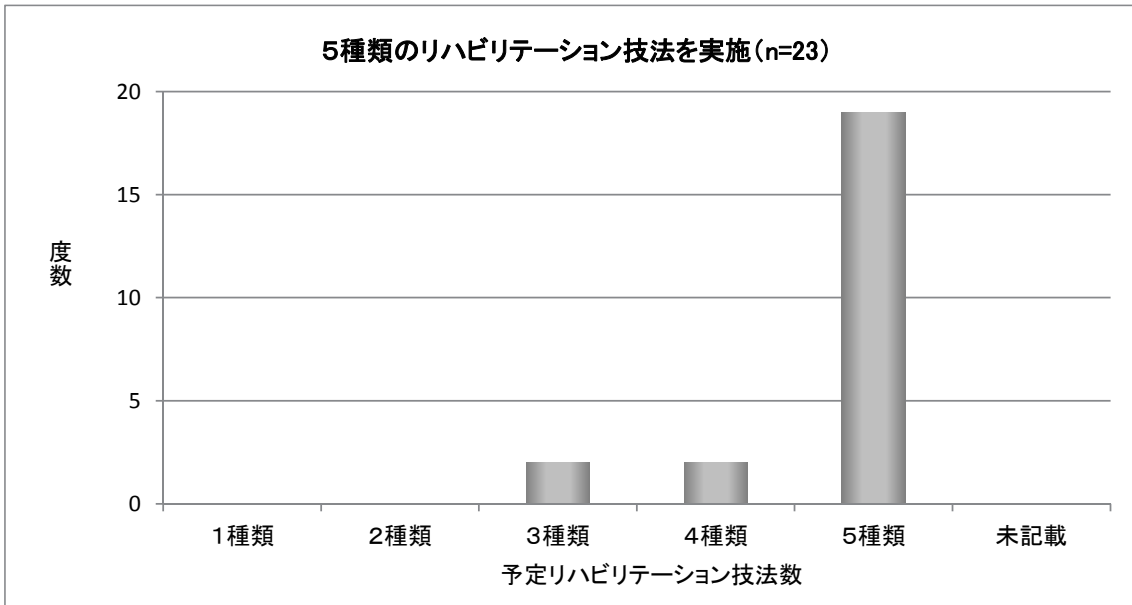


実際に行われたリハビリテーション技法数(n=970)







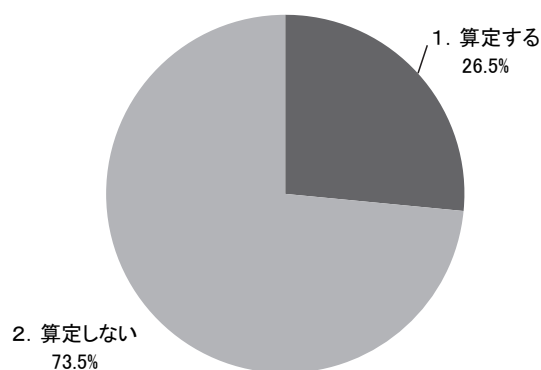


④ 認知症短期集中リハビリテーションの実施状況に関する分析 (2)

1) 認知症短期集中リハビリテーションの実施加算算定状況

認知症短期集中リハビリテーション介入群の認知症短期集中リハビリテーション実
 施加算の算定については以下のとおりである。

介入群における認知症短期集中リハビリテーション実施加算算定状況(n=49)



介入群・対照群			(SA)
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1. 介入群	49	55.7
2	2. 対照群	39	44.3
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	88	100

※調査票：サービス利用状況票がない者が5名のため、合計サンプル数は88となった。

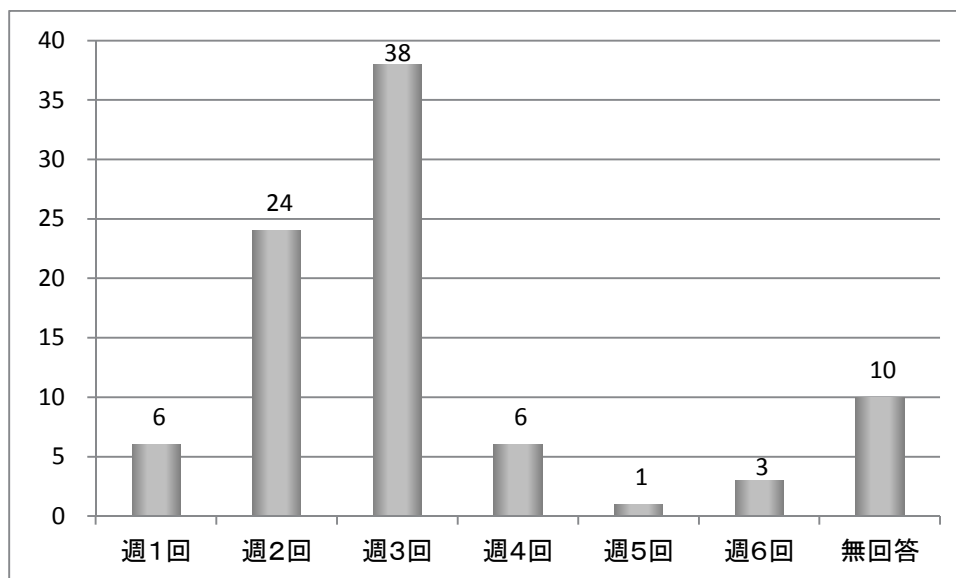
介入群における認知症短期集中リハビリテーション実施加算算定の有無(SA)			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1. 算定する	13	26.5
2	2. 算定しない	36	73.5
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	49	100

算定の場合の算定期間			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1. 調査期間中、全て加算	7	53.8
2	2. 調査期間中、一部の期間算定	4	30.8
	無回答	2	15.4
	N (%ベース)	13	100

2) 通所リハビリテーションの利用状況

通所リハビリテーション利用回数は以下のとおりである。

通所リハビリテーション利用回数(回/週)(n=88)

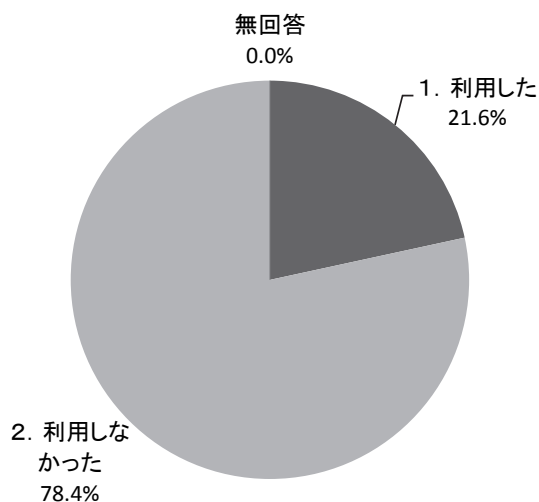


3) 他サービスの併用状況

調査期間中の通所リハビリテーション以外のサービス利用については以下のとおりである。

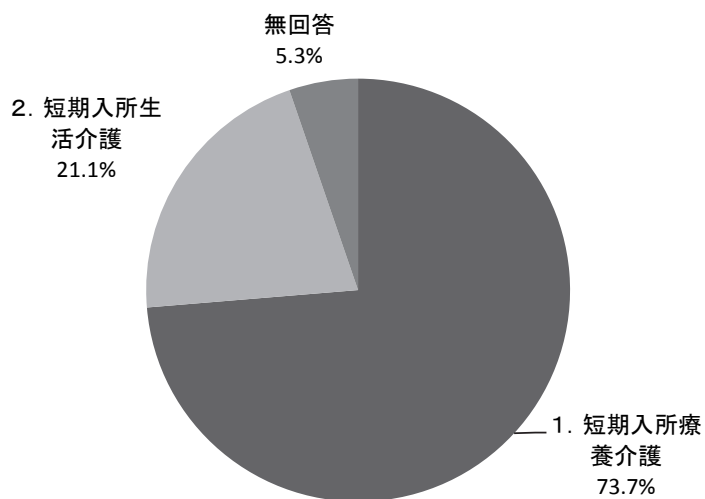
●短期入所サービスの利用状況

短期入所サービスの利用の有無 (n=88)



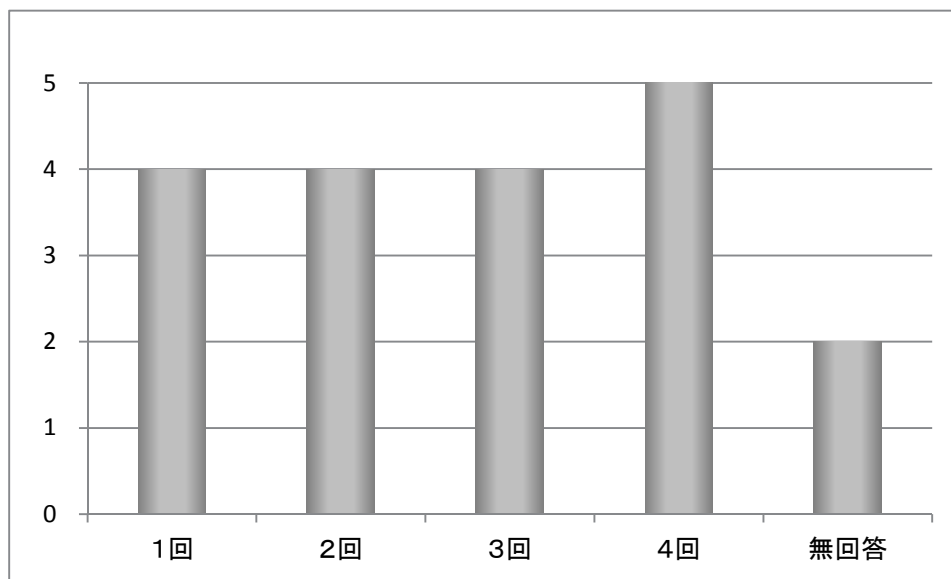
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1. 利用した	19	21.6
2	2. 利用しなかった	69	78.4
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	88	100

短期入所療養介護もしくは短期入所生活介護の利用状況 (n=19)



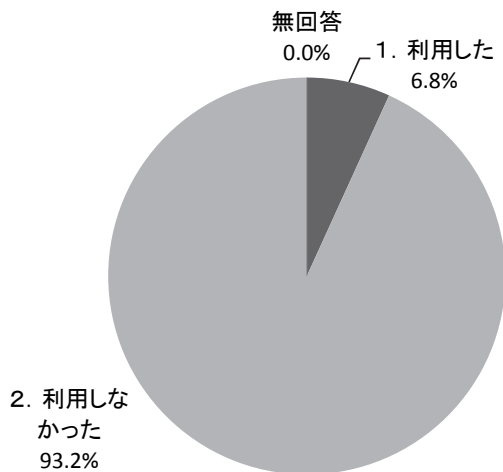
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1. 短期入所療養介護	14	73.7
2	2. 短期入所生活介護	4	21.1
	無回答	1	5.3
	N (%ベース)	19	100

短期入所療養介護もしくは短期入所生活介護の利用回数 (n=19)



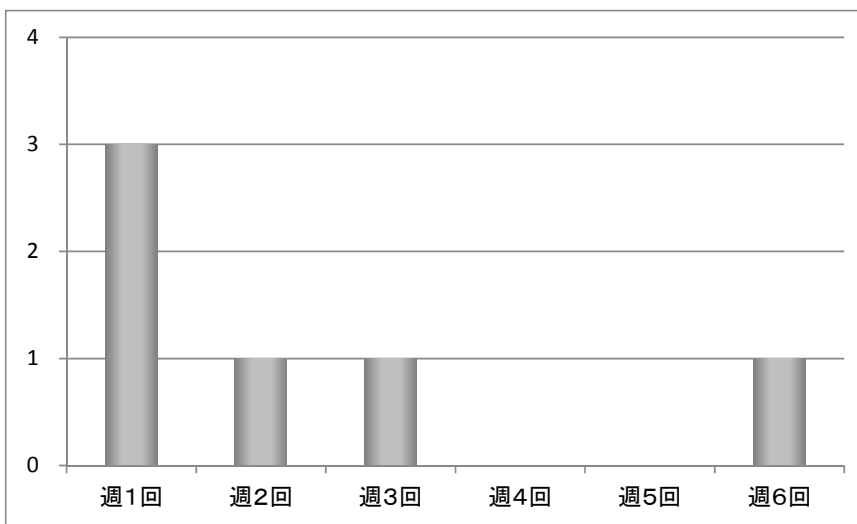
●訪問介護サービスの利用状況

訪問介護サービスの利用の有無 (n=88)



No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1. 利用した	6	6.8
2	2. 利用しなかった	82	93.2
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	88	100

訪問介護サービスの利用状況 (n=6)



No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	週1回	3	50.0
2	週2回	1	16.7
3	週3回	1	16.7
4	週4回	0	0.0
5	週5回	0	0.0
6	週6回	1	16.7
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	6	100

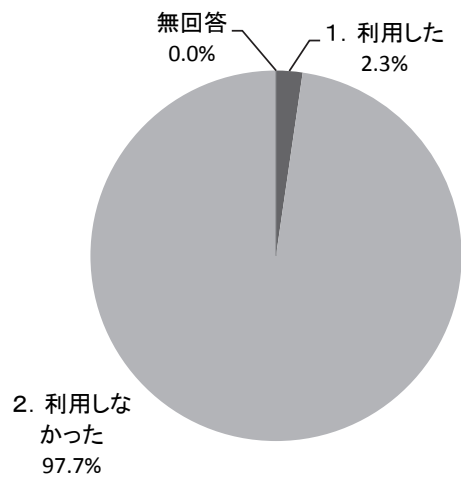
●訪問入浴介護サービスの利用状況

訪問入浴介護の利用の有無

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1. 利用した	0	0.0
2	2. 利用しなかった	88	100.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	88	100

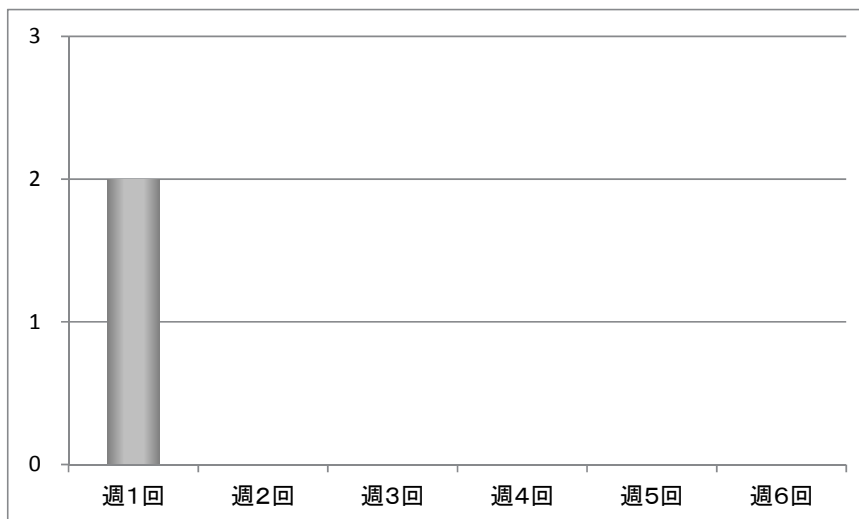
●訪問看護サービスの利用状況

訪問看護サービスの利用の有無 (n=88)



No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1. 利用した	2	2.3
2	2. 利用しなかった	86	97.7
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	88	100

訪問看護サービスの利用の状況 (n=2)



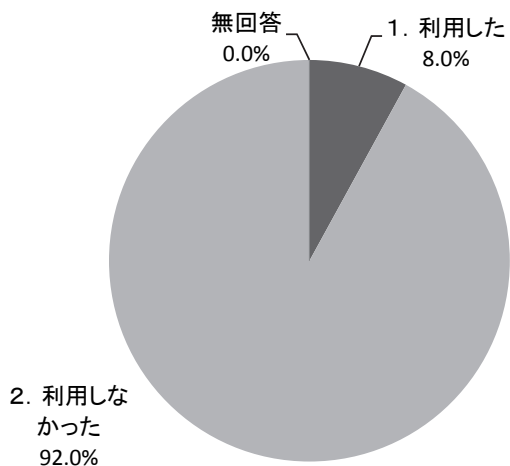
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	週1回	2	100.0
2	週2回	0	0.0
3	週3回	0	0.0
4	週4回	0	0.0
5	週5回	0	0.0
6	週6回	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	2	100

●訪問リハビリテーションの利用状況

訪問リハ利用の有無			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1. 利用した	0	0.0
2	2. 利用しなかった	88	100.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	88	100

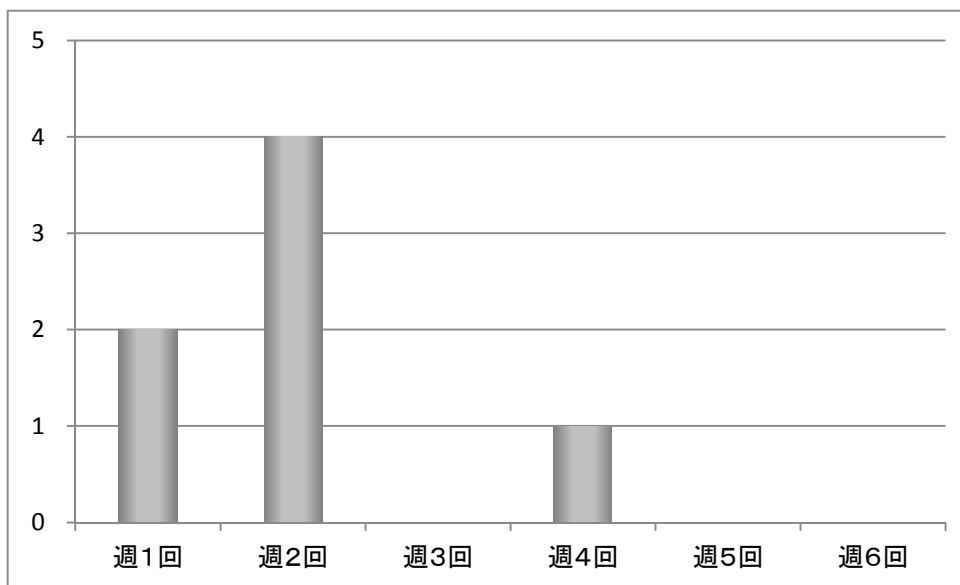
●通所介護サービスの利用状況

通所介護サービスの利用の有無 (n=88)



No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1. 利用した	7	8.0
2	2. 利用しなかった	81	92.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	88	100

通所介護サービスの利用の状況 (n=7)



No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	週1回	2	28.6
2	週2回	4	57.1
3	週3回	0	0.0
4	週4回	1	14.3
5	週5回	0	0.0
6	週6回	0	0.0
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	7	100

3. 解析結果のまとめ

以上の解析の結果、次のことが明らかとなった。

<認知症短期集中リハビリテーションの効果>

- 介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）で、認知機能について HDS-R、MMSE において有意な改善が認められた。
- 介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）で BPSD において有意な改善が認められた。
 - ✓ 介入群では、「物をなくす、置き場所を間違える、物を隠す」「同じことを何度も訊く」「言いがかりをつける」「場違いな、季節外れの服装をする」「日常的な物事に関心を示さない」「徘徊」において改善が認められた。
- 認知症短期集中リハビリテーションの各種療法による改善比較によると、以下の結果が得られた。
 - ✓ 見当識訓練を受けたグループでは、HDS-R、MMSE において改善が認められた。
 - ✓ 学習（訓練）療法を受けたグループでは、DBD13、HDS-R、MMSE において改善が認められた。
 - ✓ 記憶の訓練を受けたグループでは、社会活動において改善が認められた。
 - ✓ 作業療法を受けたグループでは、DBD13、HDS-R、MMSE において改善が認められた。
 - ✓ 運動療法を受けたグループでは、DBD13 において改善が認められた。
 - ✓ 回想法を受けたグループでは、DBD13、HDS-R、MMSE、NM スケールにおいて改善が認められた。
- 介護負担の改善比較によると、下記項目について結果が得られた。
 - ✓ 介入群では、Personal strain^⑧「介護を受けている方に対して、どうしていいかわからないと思うことがありますか」において改善が認められた。
- 認知症短期集中リハビリテーションの実施状況において、実施リハビリテーション欄の未記載を利用者の拒否等何らかの理由で予定されたリハビリテーションが行われなかったとして、拒否率は約 3%となるため、認知症短期集中リハビリテーションのアドヒアランスは良好であった。

4. 本年度調査のローデータ

(1) 調査協力施設数と解析対象者数

調査協力施設は 20 施設。解析対象者数は、介入群（認知症短期集中リハビリテーション実施者）が 52 名、対照群が 41 名であった。

(2) 被験者の要介護度

被験者の要介護度について、認知症短期集中リハビリテーション開始時点の状況と、認知症短期集中リハビリテーション終了時点の状況は、以下のとおりである。

上段:度数 下段:%	認知症短期集中リハ開始時							
	合計	1. 要介護1	2. 要介護2	3. 要介護3	4. 要介護4	5. 要介護5	6. 要支援	無回答
全体	93 100.0	27 29.0	29 31.2	19 20.4	7 7.5	4 4.3	2 2.2	5 5.4
1. 介入群	52 100.0	15 28.8	15 28.8	10 19.2	3 5.8	3 5.8	1 1.9	5 9.6
2. 対照群	41 100.0	12 29.3	14 34.1	9 22.0	4 9.8	1 2.4	1 2.4	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-

上段:度数 下段:%	認知症短期集中リハ終了時							
	合計	1. 要介護1	2. 要介護2	3. 要介護3	4. 要介護4	5. 要介護5	6. 要支援	無回答
全体	93 100.0	29 31.2	27 29.0	18 19.4	9 9.7	4 4.3	2 2.2	4 4.3
1. 介入群	52 100.0	16 30.8	15 28.8	9 17.3	4 7.7	3 5.8	1 1.9	4 7.7
2. 対照群	41 100.0	13 31.7	12 29.3	9 22.0	5 12.2	1 2.4	1 2.4	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-

要介護度の変化(認知症短期集中リハビリテーション前後)全体

上段:度数 下段:%	要介護度の変化				
	合計	下がった	不変	上がった	無回答
全体	93 100.0	1 1.1	84 90.3	2 2.2	6 6.5
1. 要介護1	29 100.0	1 3.4	25 86.2	-	3 10.3
2. 要介護2	27 100.0	-	26 96.3	1 3.7	-
3. 要介護3	18 100.0	-	18 100.0	-	-
4. 要介護4	9 100.0	-	7 77.8	1 11.1	1 11.1
5. 要介護5	4 100.0	-	4 100.0	-	-
6. 要支援	2 100.0	-	2 100.0	-	-
無回答	4 100.0	-	2 50.0	-	2 50.0

要介護度の変化(認知症短期集中リハビリテーション前後)介入群(認知症短期集中リハ実施者)

上段:度数 下段:%	要介護度の変化				
	合計	下がった	不変	上がった	無回答
全体	52 100.0	-	45 86.5	1 1.9	6 11.5
1. 要介護1	16 100.0	-	13 81.3	-	3 18.8
2. 要介護2	15 100.0	-	14 93.3	1 6.7	-
3. 要介護3	9 100.0	-	9 100.0	-	-
4. 要介護4	4 100.0	-	3 75.0	-	1 25.0
5. 要介護5	3 100.0	-	3 100.0	-	-
6. 要支援	1 100.0	-	1 100.0	-	-
無回答	4 100.0	-	2 50.0	-	2 50.0

要介護度の変化(認知症短期集中リハビリテーション前後)対照群

上段:度数 下段:%	要介護度の変化				
	合計	下がった	不変	上がった	無回答
全体	41 100.0	1 2.4	39 95.1	1 2.4	-
1. 要介護1	13 100.0	1 7.7	12 92.3	-	-
2. 要介護2	12 100.0	-	12 100.0	-	-
3. 要介護3	9 100.0	-	9 100.0	-	-
4. 要介護4	5 100.0	-	4 80.0	1 20.0	-
5. 要介護5	1 100.0	-	1 100.0	-	-
6. 要支援	1 100.0	-	1 100.0	-	-
無回答	-	-	-	-	-

(3) 調査終了時点の状況

被験者の調査終了時点の生活の場は、下表のとおりである。

上段:度数 下段:%	終了時点:調査終了時点の生活の場								
	合計	1. 自宅	2. 介護老人 保健施設	3. 居宅系施 設	4. グループ ホーム	5. 介護老人 福祉施設	6. 病院	7. その他	無回答
全体	93 100.0	87 93.5	2 2.2	-	-	-	-	-	4 4.3
1. 介入群	52 100.0	50 96.2	-	-	-	-	-	-	2 3.8
2. 対照群	41 100.0	37 90.2	2 4.9	-	-	-	-	-	2 4.9
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(4) 認知症治療薬の服用状況

被験者が認知症治療薬を服用していたかどうかについても調査を行った。認知症短期集中リハビリテーション開始前に服用していた被験者は、全体で26名、認知症短期集中リハビリテーション介入群で15名、対照群で11名であった。

調査期間中に服用していた被験者は、全体で24名、認知症短期集中リハビリテーション介入群で15名、対照群で9名であった。

上段:度数 下段:%	その3-終了時点:開始前の認知症治療薬服薬の有無				
	合計	1. あり	2. なし	3. 不明	無回答
全体	93 100.0	26 28.0	54 58.1	8 8.6	5 5.4
1. 介入群	52 100.0	15 28.8	28 53.8	6 11.5	3 5.8
2. 対照群	41 100.0	11 26.8	26 63.4	2 4.9	2 4.9
無回答	-	-	-	-	-

上段:度数 下段:%	その3-終了時点:期間中の認知症治療薬服薬の有無				
	合計	1. あり	2. なし	3. 不明	無回答
全体	93 100.0	24 25.8	60 64.5	5 5.4	4 4.3
1. 介入群	52 100.0	15 28.8	32 61.5	3 5.8	2 3.8
2. 対照群	41 100.0	9 22.0	28 68.3	2 4.9	2 4.9
無回答	-	-	-	-	-

独立性の検定		**:1%有意 *:5%有意	
カイニ乗値	自由度	P 値	判 定
0.5845	1	0.4446	

5. まとめ

(1) まとめ

通所リハビリテーション参加者の同意を得て、認知症短期集中リハビリテーション介入群 52 名と対照群 41 名において、調査開始時と調査終了時の認知機能や生活機能を測定した。

- 1) 認知症短期集中リハビリテーション介入群において、BPSD の改善 ($p < 0.01$)、認知機能の改善 ($p < 0.01$) が認められた。
- 2) これらの改善効果は、各種リハビリテーション技法で大きな差はなかった。
- 3) 介護負担において、介入群では Personal strain^⑧「介護を受けている方に対して、どうしていいかわからないと思うことがありますか」の項目において改善が認められた。

(2) 結論

通所リハビリテーション参加者の認知症短期集中リハビリテーションは、BPSD の改善、認知機能の改善に効果的であった。

より長期的な持続効果とどのくらい期間をあけて、認知症短期集中リハビリテーションを再開すべきかについては、今後の検討課題である。

参考 調査票等

平成24年9月20日

会 員 各 位

公益社団法人全国老人保健施設協会
通所リハビリテーションにおける認知症短期集中
リハビリテーションの有用性に関する調査研究事業班
担当役員 東 憲太郎

「通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーション実施について」 アンケートのご協力のお願い

時下 ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

昨年度の「軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査研究事業」および「介護老人保健施設における入所・短期入所リハビリテーションがもたらす在宅復帰・在宅生活支援に関する調査研究事業」、また、その他の当協会の事業にご協力くださりまして誠にありがとうございます。この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。

さて、当協会では今年度国庫補助事業「通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーションの有用性に関する調査研究事業」を受け、在宅における軽度の認知症の高齢者を対象に認知症短期集中リハビリテーションを提供し、在宅における介護負担軽減効果について検証いたします。

本調査は、通所リハビリテーションにて認知症短期集中リハビリテーションの実施施設に、調査のご協力をお願いしたいと存じます。そこで、貴施設の実施状況をお伺いいたしたく、下記にご記入の上 **9月26日まで**にご返信くださいますよう、よろしくごお願い申し上げます。

業務ご多忙の折、誠に恐縮ではございますが、主旨をご理解いただきご協力賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。

本アンケートにご回答いただいた施設から100施設程度を抽出し、10月頃に調査をご依頼する予定でございます。

問い合わせ先：公益社団法人全国老人保健施設協会 業務部業務第一課
〒105-0014 東京都港区芝 2-1-28 成旺ビル7階
TEL. 03-3455-4165 FAX. 03-3455-4172

通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーション実施について アンケート調査

都道府県名

施設名

1. 貴施設において、通所リハビリテーションで認知症短期集中リハビリテーションを実施されていますか。もしくは実施可能でしょうか。(1つに○)

- 1 現在、認知症短期集中リハビリテーションを実施しており、対象者には加算している。
- 2 現在は認知症短期集中リハビリテーションを実施していないが、いつでも実施できる体制にある。
- 3 現在、認知症短期集中リハビリテーションを実施しているが、加算はおこなっていない。
- 4 現在は認知症短期集中リハビリテーションを実施しておらず、加算もおこなっていない。そして、認知症短期集中リハビリテーションは実施不可能である。

2. 調査は通所リハビリテーションにおいて、認知症短期集中リハビリテーションを実施する方と認知症短期集中リハビリテーションを実施しない方の2群に分けて行います。無作為抽出により2群に分けますが、実施群に関しては認知症短期集中リハビリテーション加算要件を満たさない方に対しても認知症短期集中リハビリテーションを実施していただく場合がございます。リハビリテーションを提供していただいたにも係わらず加算を算定できないこととなり、誠に申し訳ございませんが、何卒この調査にご協力をお願いいたします。

この調査にご協力いただけますでしょうか。(1つに○)

- 1 協力できる
- 2 協力できない

～アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。～

この用紙を平成24年9月26日までにFAX.03-3455-3535 へてお送りください。

全老健第 24-275 号
平成 24 年 10 月 2 日

会 員 各 位

公益社団法人全国老人保健施設協会
会長 木川田 典彌
(公印省略)
通所リハビリテーションにおける認知症
短期集中リハビリテーションの有用性に
関する調査研究事業班
班長 鳥羽 研二

「平成 24 年度通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーション
の有用性に関する調査」ご協力について (お願い)

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

昨年度実施の老人保健事業推進費等補助金事業につきましては、多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成 18 年度～22 年度までの調査研究事業におきまして、認知症短期集中リハビリテーションは介護老人保健施設の入所者に対して、対照群を設定した介入調査研究により認知機能の維持改善のみならず認知症の B P S D に対しても改善効果があること、認知症短期集中リハビリテーション実施後の小集団による継続認知症リハビリテーションが有効であるという結果を得ることができました。また、平成 23 年度の研究では、それまでの研究方法を踏襲した介入調査により、通所リハビリテーションにおいて認知症短期集中リハビリテーションは軽度の認知症に対して A D L の改善、B P S D 軽減および意欲の向上をもたらすことが示唆されました。

今年度も、平成 24 年度老人保健事業推進費等補助金 (老人保健健康増進等事業分) を受け、認知症のリハビリテーションに関する調査研究事業として「通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーションの有用性に関する調査研究事業」を実施することとなりました。

本事業は、在宅における軽度の認知症の高齢者を対象に認知症短期集中リハビリテーションを提供し、在宅における介護負担軽減効果について検証いたします。

今回は、9 月実施のアンケート調査により、ご協力いただけるとご回答いただいた施設を中心に調査をご依頼いたしたいと存じます。

つきましては、諸事ご多忙の折、誠に恐縮でございますが、本調査の主旨をご理解いただき、特段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

本件問い合わせ先：公益社団法人全国老人保健施設協会 業務部業務第一課
TEL.03-3455-4165 FAX.03-3455-4179

**平成 24 年度
通所リハビリテーションにおける
認知症短期集中リハビリテーションの有用性に関する調査**

～ 実施要綱 ～

I. 調査の目的

本調査は、平成18～20年度「認知症短期集中リハビリテーション実態調査」および平成21年度「認知症高齢者における維持期リハビリテーション実態調査」、平成22年度「認知症高齢者の継続リハビリテーション実態調査」、平成23年度「軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査」の継続として、実施するものです。平成18～23年度の調査にご協力いただきました施設には、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

昨年度の研究において、それまでの研究方法を踏襲した介入調査により、通所リハビリテーションにおいて認知症短期集中リハビリテーションは軽度の認知症に対してADLの改善、BPSD軽減および意欲の向上をもたらすことが示唆されました。

これらの成果を受け、今年度は、介護老人保健施設の通所リハビリテーションにおいて、認知症短期集中リハビリテーションの在宅における介護負担軽減効果について検証し、その有用性を検討することとしました。

趣旨をご理解いただき、何卒ご協力のほどよろしくお願い致します。

II. 調査対象施設

平成18～23年度実施の「認知症短期集中リハビリテーション実態調査」「認知症高齢者における維持期リハビリテーション実態調査」「認知症高齢者の継続リハビリテーション実態調査」「軽度の認知症予防のためのリハビリテーションの提供方法に関する調査」および平成23年度「介護老人保健施設における入所・短期入所リハビリテーションがもたらす在宅復帰・在宅生活支援に関する調査研究事業」においてご回答いただいた施設を中心とした会員施設

III. 調査結果の記載

電子媒体にてお願いします。

(調査票は、別添 CD-ROM にございます。直接ご入力いただき、回答はメールにて回収致します。
メールアドレス info@roken.or.jp)

事業終了後、**平成25年2月8日(金)まで**にお送りください。

IV. 調査内容

調査は、対象者(認知症リハビリを実施する方)と対照群(認知症リハビリを実施しない方)を置いて行います。

① 対象者・対照群を以下のように設定して下さい。

- 平成 24 年 10 月 1 日(月)～31 日(水)に、
 - (1)貴施設の通所リハビリテーション利用者
 - (2)認知症を有する方(認知症のレベルは問いません)
 - (3)調査開始時点において、認知症短期集中リハビリテーションを行っていない方
 - (4)一人暮らしではない方(自宅において家族等に介護を受けている方)で、下記に該当しない方が対象となります。

以下の方は本事業の調査対象にはなりません。
* 調査開始時点、既に通所リハビリテーションの認知症短期集中リハビリテーションを実施している方(加算の有無を問わず)
* 過去 3 ヶ月間の間に認知症短期集中リハビリテーションを実施した方(加算の有無を問わず)

調査対象者に、②「03 同意書」を用い同意書を交わしてください。同意が得られた方に、通し番号(No. 1～)を付けて下さい。

可能であれば、1 施設 6 名以上を選定した上、番号を振って下さい。

- 上記で番号を付けた人それぞれについて、対象者とするか対照群とするか無作為抽出で選定して下さい。

【無作為抽出の方法】
1)添付の「09 乱数表」と鉛筆を用意する。
2)目を閉じながら、乱数表の上に適当に鉛筆で印をつける。
3)印のついた数字が通し番号No. 1 に対応する数字となる。印のついた数字の一つ下の数字が通し番号No. 2 に対応する。
4)対応した数字が、奇数の場合は認知症短期集中リハビリテーションを実施する「対象者」、偶数の場合は実施しない「対照群」とする。

どちらになったかを調査対象者にご連絡下さい。

② 調査の実施に当たっては、添付ファイル「03 同意書」を用い、調査対象者及びそのご家族に事前に本調査の趣旨などをご説明いただくとともに、同意を得て下さい。(同意を得られない方は、本調査の対象者から除外して頂いて構いません。)

↓

同意が得られましたら「説明及び協力同意書」に署名・捺印を頂いて下さい。(お手数ですが、人数分コピーをお取り下さい。)なお、ご本人から直接の同意を受けることが困難な場合には、ご本人の意思及び利益を代弁できると考えられる「代諾者」の同意を得て下さい。

↓

調査対象者全員分の「説明及び協力同意書」を貴施設にてとりまとめていただき、事業終了後、**平成 25 年 2 月 8 日(金)までに**当協会あてご郵送ください。

(注) 同意書の取り付けについて

本調査は、利用者ご本人の医療・介護に関わる情報を収集することになりますので、お手数でも添付ファイル「03 同意書」の書式をご利用頂き、必ず説明及び協力同意書の取り付けを行って頂きますようお願い致します。

また、調査対象者が認知症等により有効なインフォームド・コンセントを与えることができないと客観的に判断される場合には、代諾者（当該調査対象者の法定代理人等、調査対象者の意思及び利益を代弁できると考えられる方）の同意と署名により、調査への同意取り付けに替えることが可能です。

この調査により得られたデータをこの調査以外の目的で使用することはありません。

また、調査データについて、個人が特定されるような公表は一切致しませんので、調査対象者並びに調査実施者のプライバシーは守られます。

なお、途中で調査への協力を撤回されたい場合は、いつでも同意を取り消すことができます。この場合は、添付ファイル「03 同意書」の最後にあります「協力同意撤回書」にご署名頂いたうえ、ご一報下さい。

- ③ これ以後の、調査票への入力には、対象者の氏名が特定できないように番号にて表記をしてください。ただし、入力頂きました内容の確認が後からできますように、添付ファイル「04 対比表」に「通し番号」と「お名前」「対象者・対照群の種別」をご入力頂き、貴施設にて保管下さいませよう、宜しくお願い致します。

(本調査で知り得た個人情報、調査の目的以外には使用致しません。)

また、お手数ですが、対象者人数を把握致しますので、対象者・対照群の数を**平成24年10月31日(水)までに**当協会あてメールにてお送り下さい(メールアドレス info@roken.or.jp)。対比表が完成次第、氏名を抜いたものの対比表ファイルを**平成24年11月15日(木)までに**当協会あてメールにてお送り下さい。

- ④ リハビリテーション担当者が、対象者全員の認知症短期集中リハビリテーション開始時点の状況、および対照群全員の通所リハビリテーション利用開始時点の状況について、添付ファイル「05 認知症短期集中リハ開始時(通所リハビリテーション開始時)の調査票」に入力して下さい。入力して頂きました調査票(その1～その3)のファイルは、**平成24年11月15日(木)までに**当協会あてメールにてご送付下さい。調査票(その4)は利用者家族等(自宅において介護をされている方)にご記入いただき、**平成24年11月15日(木)までに**当協会あてご郵送ください。
- ⑤ 対象者全員に、3ヵ月間、認知症短期集中リハビリテーションを実施して下さい(1対1、1回当たり20分、提供回数は任意)。ただし、1回実施するごとに、添付ファイル「06 認知症短期集中リハ実施のチェックシート」にリハビリテーション担当者が入力して下さい。
- ⑥ 対照群の方々については、上記の対象者に行うような認知症短期集中リハビリテーションは実施しないで下さい。
- ⑦ 事業実施中に「08 サービス利用状況票」を入力(記録)して下さい。

- ⑧ 認知症短期集中リハビリテーションが終了致しましたら、リハビリテーション担当者が添付ファイル「07 認知症短期集中リハ終了時(通所リハビリテーション開始3ヵ月後)の調査票」に入力して下さい。

対照群の方々については、本事業開始3ヵ月後の状況を入力して下さい。

調査票(その4)を利用者家族等(調査開始時に記入した同じ方)にご依頼下さい。

- ⑨ 上記⑤、⑦、⑧のファイルを取りまとめ、**平成25年2月8日(金)までに**当協会あてメールにてお送り下さい。

⑧調査票(その4)、②「03 同意書」の「説明及び協力同意書」を(「協力同意撤回書」がある場合も)**平成25年2月8日(金)までに**当協会あてご郵送ください。

(注) 調査を途中で中止するケースについて

調査期間中は、基本的に同じ環境、同じ状態であることが必要です。そこで、状態の大幅な変化を示す入所、入院、転居等、通所リハビリテーションの実施の目処が立たなくなった時点で調査を終了し、終了時点の調査票を記入の上、ご提出ください。

但し、調査期間中に短期入所の利用・入院等で一時的に通所リハビリテーションを中断した場合であっても、再び通所リハビリテーションを利用する見込みがある場合は引き続き調査を行ってください。

調査期間中に通所リハビリテーション以外のサービスの利用は可としますが、通所リハビリテーションを一時中断するサービス(短期入所等)・入院については、調査期間中に合計24日以上利用した時点で対象者・対照群に係わらず調査を終了とし、終了時点の調査票を記入の上ご提出ください。

(注) 提出期限厳守のお願い

上記の各書類の提出につきましては、期限を厳守して頂きますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

V. その他

ご回答いただきました個別のデータは非公開とし、本調査の目的以外には使用いたしません。




VI. 問い合わせ先：公益社団法人全国老人保健施設協会 業務部業務第一課

〒105-0014 東京都港区芝2-1-28 成旺ビル7階

TEL:03-3455-4165 FAX:03-3455-4172

ホームページ:<http://www.roken.or.jp> メールアドレス:info@roken.or.jp

調査概要

<p>平成24年10月31日(水)まで</p> <p>事業実施施設にて、職員が調査対象となり得る方(※1)に対して調査概要を説明し、同意書を書き、同意が得られた方を、実施要綱に記載されている方法で、対象者、対照群に振り分ける。どちらになつたかを職員より調査対象者に連絡。対比表に氏名と対象者・対照群の種別を記載し、施設にて保管。全老健提出用に対比表から名前を抜いたものを用意。</p> <p>10月31日(水)までに対象者・対照群の数を全老健事務局へ報告。(この時点では、人数をご報告頂ければ対比表はご提出いただけなくても構いません)</p> <p>※同意書は事業終了時まで各施設にて保管。</p> 	<p>事業開始</p> <p>対象者となった方に対し、認知症短期集中リハ(1対1、1回20分以上の認知症リハビリ)を実施。提供回数には任意。</p> <p>対照群となった方には上記のようなリハビリを実施しない。</p>  	<p>事業実施中</p> <p>調査期間中、対象者に対して行ったリハを、リハ担当者からチェックシートに記入。</p> <p>事業終了時、サービス利用状況票を作成できよう、サービス利用状況票に記載されている居宅やサービスの利用状況や突起すべき事項等を職員が記録しておく。</p>	<p>平成24年10月～平成25年1月 (調査期間:3ヵ月間)※2 (平成24年11月15日(木)までに調査開始時の調査票及び対比表の提出)</p> <p>事業終了</p> <p>対象者・対象群に関わらず、調査終了時の調査票(その1～4)を記入(その1～その3はリハ担当者が、その4は調査開始時に記入した同じ方が記入)。</p> <p>職員がサービス利用状況票を記入。</p> <p>チェックシート、調査終了時の調査票、サービス利用状況票、利用者からの同意書を平成25年2月8日(金)までに全老健事務局へ提出。</p>
<p>同意書(代諾者(又は代筆者))がいる場合</p>	<p>対象者・対照群に関わらず、調査開始時の調査票(その1～4)を記入し、名前を抜いた対比表と合わせて、11月15日(木)までに全老健事務局へ提出。(その1～その3は施設のリハ担当者が、その4は利用者家族等(自宅において介護をされている方が記入)</p>	<p>調査開始時の調査票(その4)を記入(自宅において介護をされている方が記入)</p>	<p>調査終了時の調査票(その4)を記入(調査開始時に記入した同じ方が記入)</p>

※1 本事業の対象となる方は以下の全てを満たす方です。(認知症短期集中リハビリテーションの算定要件を満たさなくとも、本事業の対象にはなりません。)

- ① 貴施設の通所リハビリテーション利用者
- ② 認知症を有する方(認知症のレベルは問いません)
- ③ 調査開始時点において、認知症短期集中リハビリテーションを行っていない方
- ④ 一人暮らしではない方(自宅において家族等に介護を受けている方)

以下の方は本事業の調査対象にはなりません。

- ・調査開始時点、既に通所リハビリテーションの認知症短期集中リハビリテーションを実施している方(加算の有無を問わず)
- ・過去3ヵ月間に認知症短期集中リハビリテーションを実施した方(加算の有無を問わず)

※2 調査期間中について

- ・対象者に提供する認知症短期集中リハの提供回数は任意です。
- ・入所、入院、転居等、通所リハの実施の目処が立たなくなつた時点で調査を終了し、終了時点の調査票を記入の上、ご提出ください。
- ・調査期間中に短期入所の利用・入院等で一時的に通所リハを中断した場合であっても、再び通所リハを利用する見込みがある場合は引き続き調査を行ってください。
- ・調査期間中に通所リハ以外のサービス(短期入所等)は利用可としますが、24日以上利用した時点で終了とし、終了時点の調査票を記入の上ご提出ください。

平成 24 年度
通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーション
の有用性に関する調査

ご協力をお願い

平素は、当施設の運営にご協力頂きまして、誠に有難うございます。

さて、この度、当施設では、平成 24 年度に公益社団法人全国老人保健施設協会が実施する「通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーションの有用性に関する調査」に協力することになりました。

この調査は、在宅における軽度の認知症の高齢者の方々を対象に認知症短期集中リハビリテーションを提供し、その効果を検証することを目的として実施されるものであり、認知症の方によりよいサービス提供ができるように検討する基礎データとして活用されます。

なお、この調査により得られたデータをこの調査以外の目的で使用することはありません。また、お名前などの個人情報は一切わからないようにしますのでプライバシーは守られます。

また、途中で調査への協力を撤回されたい場合は、いつでも同意を取り消すことができます。

詳しい調査内容については、次ページ以降をご覧ください。

平成 24 年 ____ 月 ____ 日

施設名： _____

平成 24 年度
通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーション
の有用性に関する調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、在宅における軽度の認知症の高齢者の方々を対象に認知症短期集中リハビリテーションを提供し、その効果を検証することを目的として実施されるものであり、介護報酬見直しの検討の際の基礎データとしても活用されます。

今後の介護老人保健施設のサービスのあり方を考える上での重要な調査ですので、趣旨をご理解頂き、ご協力下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。

2. 調査の内容

■調査の対象

全国の介護老人保健施設 100 施設（予定）において、本年の 10 月～11 月時点で通所リハビリテーションを利用し、当施設が本事業に該当すると判断した方。

■調査の方法

- ・上記の利用者について、認知症短期集中リハビリテーション開始の状況若しくは調査期間最初の通所リハビリテーションの状況、そして 3 ヶ月後の認知症短期集中リハビリテーション終了の状況若しくは 3 ヶ月後の通所リハビリテーションの状況を記録します。
- ・認知症短期集中リハビリテーションは作業療法、学習（訓練）療法などを行います。
- ・記録は、リハビリテーションの担当者が行います。

■ご利用者様の区分

本調査は、認知症短期集中リハビリテーションを実施する対象者と、認知症短期集中リハビリテーションを実施しない対照群に分かれます。

現時点では、どなたが対象者になり、どなたが対照群になるか全く分かりません。後日、無作為に割り付けを行います。結果につきましては、施設の職員よりご連絡いたします。

認知症短期集中リハビリテーションを実施する対象者になりますと、実施しない対照群より多少利用料が高くなる場合があります。

実施しない対照群になった場合、ご利用者・施設の合意の上 3 ヶ月後にリハビリテーションを受けることが可能な場合があります。

詳しくは施設の職員にお尋ねください。

■調査日

平成 24 年 ____ 月 ____ 日 ～ ____ 月 ____ 日

3. 調査の実施体制

■実施主体

公益社団法人全国老人保健施設協会

〒105-0014 東京都港区芝 2-1-28 成旺ビル 7 階

T E L : 03-3455-4165 F A X : 03-3455-4172

ホームページ : <http://www.roken.or.jp/>

メールアドレス : info@roken.or.jp

■調査実施における当施設内の責任者

4. 調査にご協力頂く場合の配慮

■ご利用者のご家族の個人情報について法令を遵守します。

- ・実施主体である公益社団法人全国老人保健施設協会に報告する情報には、個人の氏名・住所等、個人が特定できるような情報を記入する欄はなく、符号のみで処理する仕組みとなっております。
- ・ご利用者およびご家族の方の個人が特定できるような情報がそのまま公表されることはなく、ご迷惑をおかけすることはありません。
- ・同意書にご署名のうえ調査にご協力いただいた場合でも、いつでも同意を取り消すことができますので、お申し出ください。

■ご協力頂きました情報は、本調査以外の目的には使用いたしません。

■同意されない場合でも、同意されました後で同意を取り消される場合でも、いかなる不利益も発生致しません。

5. 調査に関するお問い合わせ先

施設名 : _____

担当者 : _____

誠に恐縮でございますが、取り組みの趣旨をご理解の上、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 24 年度
通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーション
の有用性に関する調査

説明及び協力同意書

当職は、「通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーションの有用性に関する調査の概要」記載の事項を説明のうえ、当施設及び公益社団法人全国老人保健施設協会において、以下の事項を遵守することを説明いたしました。

- ◆ 本調査(通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーションの有用性に関する調査)への協力にあたり、調査内容を本研究事業以外の目的に使用することはありません。また、協力者の個人名暗号化等の対策により、個人情報について法令を遵守します。
- ◆ 調査協力者に対するケアやサービスに影響が生じることや不利益が生じるものではありません。

施設名： _____ 説明者名： _____

施設長： _____ 宛

私は以上について十分な説明を受け、その趣旨を了承した上で、本調査に協力することに同意します

年 月 日
御署名

_____ (印)
代筆の場合は、立会人名(必須)
代諾者(又は代筆者) _____

(本人との関係) _____

代諾者(代筆)で署名した理由

- _____
- ※ 同意書は必ずご本人が署名してください。
 - ※ やむを得ず、自署が不可能で、施設職員が立会いのもと、ご本人の同意が確認でき、ご家族又は法定代理人が代筆する場合、代筆で署名した理由をご記入ください。

以上

【本件問合せ先】

(担当者) _____

※同意書原本は調査票とともに全老健にて保管いたします。ご本人控については、コピー等で対応させていただきますので申し出下さい。

平成 24 年度
通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーション
の有用性に関する調査
協力同意撤回書

私は、「通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーションの有用性に関する調査」に協力することに同意しましたが、その同意を撤回することを、

(施設名) _____ の

(担当者名) _____ に伝え、

ここに同意撤回書を提出します。

年 月 日

御署名

_____ ⑩

代筆の場合は、立会人名(必須)

代諾者(又は代筆者) _____ [_____]

(本人との関係) _____

代諾者(代筆)で署名した理由

※ 同意撤回書は必ずご本人が署名してください。
※ やむを得ず、自署が不可能で、施設職員が立会いのもと、ご本人の同意が確認でき、ご家族又は法定代理人が代筆する場合、代筆で署名した理由をご記入ください。

以上

【本件問合せ先】

(担当者) _____

平成 24 年度 通所リハビリテーションにおける 認知症短期集中リハビリテーションの有用性 に関する調査

実施対象者等対比票（取扱い注意）

※この票は、貴施設にて保管下さい。

※但し、調査対象者数把握のため、対象者・対照群の数を平成 24 年 10 月 31 日(水)までに全老健事務局までメールにてご連絡、氏名を抜いたこの票を平成 24 年 11 月 15 日(木)までに全老健事務局までメールにてご提出ください。

	調査票標記 (通し番号)		お名前	対象者・対照群 の種別
例	①	→	老健 太郎	対象者
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		
		→		

全老健メールアドレス info@roken.or.jp

認知症短期集中リハ開始時点(通所リハビリテーション開始時点)の調査票(その1) 計画評価実施日 年 月 日

利用者番号: 要介護度: 施設名:


自立・介護 状況	現在の評価及び目標					使用用具 杖・装具・歩 行器・車椅子 など	介護内容 つたい・もたれ等	項目	状況	現在の評価及び目標			
	自 立	見 守 り	一 部 介 助	全 介 助	行 わ ず					常 に	よ く あ る	と き に	な い
日常生活・社会活動	トイレへの移動・行為	3	2	1	0			物をなくす、置き場所を間違える、物を隠す	3	2	1	0	
	車イスへの移動	3	2	1	0			昼間寝てばかりいる	3	2	1	0	
	階段昇降	3	2	1	0			介護拒否	3	2	1	0	
	歩行	3	2	1	0			同じことを何度も訊く	3	2	1	0	
	食事	3	2	1	0			暴言	3	2	1	0	
	排泄(尿)	3	2	1	0			言いがかりをつける	3	2	1	0	
	排泄(便)	3	2	1	0			場違いな、季節外れの服装をする	3	2	1	0	
	整容	3	2	1	0			物をため込む	3	2	1	0	
	更衣	3	2	1	0			日常的な物事に関心を示さない	3	2	1	0	
	入浴	3	2	1	0			昼夜逆転	3	2	1	0	
	ADL合計							同じ動作をいつまでも繰り返す	3	2	1	0	
	職員との会話	3	2	1	0			物を散らかす	3	2	1	0	
入所者との会話	3	2	1	0			徘徊	3	2	1	0		
身の回りの片づけ	3	2	1	0			その他(具体的に)	3	2	1	0		
リクエション	3	2	1	0			その他(具体的に)	3	2	1	0		
外出	3	2	1	0			その他(具体的に)	3	2	1	0		
活動合計							周辺症状合計(DBD i13)						
生活行為	生活意欲	現在の評価及び目標											
		自 発 的	促 し	無 関 心									
		起床	2	1	0								
		挨拶	2	1	0								
		食事	2	1	0								
		排泄	2	1	0								
リハ、レク	2	1	0										
合計(意欲の指標)													

認知症短期集中リハ開始時点(通所リハビリテーション開始時点)の調査票(その2)

改訂長谷川式スケール		点数	
1. 年齢	お歳はいくつですか？(2年までの誤差は正解)	0	1
2. 日時の見当識	今日は何年の何月何日ですか？何曜日ですか？(年、月、日、曜日が正解でそれぞれ1点づつ)	年	0 1
		月	0 1
		日	0 1
		曜日	0 1
3. 場所の見当識	私たちが今いるところはどこですか？(自発的にできれば2点 5秒おいて、家でですか？ 病院ですか？ 施設ですか？の中から正しい選択をすれば1点)	0	1 2
4. 3つの言葉の記銘	これから言う3つの言葉を言ってみて下さい。あとでまた聞きますのでよく覚えておいてください。 (以下の系列のいずれか1つで、採用した系列に○印をつけておく) 1: a) 桜 b) 猫 c) 電車 2: a) 梅 b) 犬 c) 自転車	0	1
		0	1
		0	1
5. 計算	100から7を順番に引いてください。 (「100引く7は？ それからまた7を引くと？」と質問する。最初の答えが不正解の場合は打ち切る)	(93) (86)	0 1 0 1
6. 数字の逆唱	私がこれから言う数字を逆から言って下さい。 (6-8-2, 3-5-2-9を逆に言ってもらう。3桁逆唱に失敗したら打ち切る)	2-8-6 9-2-5-3	0 1 0 1
7. 遅延再生	先ほど覚えてもらった言葉をもう一度言ってみて下さい。 (自発的に回答があれば各2点。 もし回答がない場合以下のヒントを与え、正解であれば1点) a) 植物 b) 動物 c) 乗り物		a: 0 1 2 b: 0 1 2 c: 0 1 2
8. 物品記銘	これから5つの品物を見せます。それを隠しますので何があったか言って下さい。(時計、鍵、タバコ、ペン、硬貨など必ず相互に無関係なもの)		0 1 2 3 4 5
9. 言葉の流暢性	知っている野菜の名前をできるだけ多く言って下さい。 (答えた野菜の名前を右欄に記入する。途中で詰まり、約10秒間待っても出ない場合にはそこで打ち切る) 0~5=0点、6=1点、7=2点、8=3点、9=4点、10=5点		0 1 2 3 4 5
計			

NMスケール	0点	1点	3点	5点	7点	9点	10点	点数
1. 家事・身辺整理	不能	殆ど不能 ・手の届く範囲の物は取れる	ごく簡単な家事、整理も不完全 ・おしぼりを濡せば顔を拭くことは出来る	簡単な買い物も小確か、ごく簡単な家事、整理のみ ・声がけにて、ペット周辺の整理ができる	簡単な買い物可能 留守番、複雑な家事、整理は困難 ・食器が洗える ・エレベーターの操作が一人で可能	やや不確実だが 買い物、留守番 家事などを一応 まかせられる ・部屋のそうじ、 自分の衣類の整理 ができる	正常	
2. 関心・意欲・交流	無関心、 全く何もしない	周囲に多少関心あり ぼんやりと無為に 過ごすことが多い	自らは何もしないが 指示されれば簡単な ことはしようとする ・手渡せば雑誌の グラビア等を見る	習慣的なことはある 程度自らする。気が 向けば人に話しかけ る ・話しかけられれば 話ははずむ ・声がけにて行事に 参加する	運動、家事、仕 事、趣味など気が 向けばする 必要なことは自ら 話しかける	やや積極性の低 下が見られるが ほぼ正常 ・周囲の人と雑談 ができる ・趣味を持っている ・家族や同僚者の 行動を知っている		
3. 会話	呼びかけに無反応	呼びかけに一応 反応するが、自ら 話すことはない	ごく簡単な会話 のみ可能 辻つまの合わない ことが多い ・有難う、ごちそう さま、おはよう 等が言える	簡単な会話は可能 であるが、 辻つまが合わない ことがある	話し方はなめらか ではないが、簡単な 会話は通じる ・相手の話が理解 できる	日常会話はほぼ 正常、複雑な会話 がやや困難		
4. 記銘・記憶	不能	新しいことは全く 覚えられない 古い記憶が稀にある ・名前が言える	最近の記憶は殆ど ない、古い記憶が 多少残存 生年月日不確か 出生地を覚えてい る	最近の出来事の記 憶困難、 古い記憶の 部分欠落 ・生年月日正答	最近の出来事をよく 忘れる、古い記 憶はほぼ正常 ・物をしまい忘れて 騒ぐ ・服薬の自己管理 が難しい	最近の出来事を ときどき忘れる ・一人で受診 できるが診察日を 時に忘れる		
5. 見当識	全くなし	殆どなし 人物の弁別困難 ・男女の区別は 出来る	失見当識著明 家族と他人は区別 出来るが誰である かわからない ・自分の年齢を かけ離れた歳で 答える	失見当識かなり あり(日時、年齢 場所など不確か 道に迷う) ・看護婦、医者、 寮母の見分けが 出来る	ときどき場所を 間違えることあり ・目的の場所へ 行こうとするが 時に迷う	ときどき日時を 間違えることあり		
計								

認知症短期集中リハ開始時点(通所リハビリテーション開始時点)の調査票(その3)

MMS(Mini-Mental State)		点数
1 見当識(5点)	今年は何年ですか 今日は何月ですか 今日は何日ですか 今の季節は何ですか 今日は何曜日ですか	
2 見当識(5点)	ここは何県ですか ここは何市ですか この施設名は何ですか ここは何階ですか ここは何地方ですか	
3 記名(3点)	ゆっくりと、互いに関連のない3語、たとえば「みかん、電車、サル」といつてきかせ、直後にその通りに繰り返して言えば3点とします。その単語を覚えておくようにいいます。	
4 計算(5点)	100から順々に、7を引くことを5回繰り返させる (93 86 79 72 65)	
5 想起(3点)	約5分たってから、「さっきいった三つの言葉を思い出していきい」と尋ねます。正しく3つ思い出せれば、3点とします。	
6 命名(2点)	時計を見せて、これは何ですかと聞く 鉛筆を見せて、これは何ですかと聞く	
7 復唱(1点)	「ちりもつもれば、やまとなる」をゆっくりいって、同じように繰り返すようにいいます。	
8 三段階口頭命令(3点)	紙切れを机の上に並べておいてから、ゆっくり指示します 「右手でこの紙を取ってください」 「それを半分に折りたたんでください」 「机の上に置いてください」	
9 書字命令(1点)	「目を閉じてください」とかいてある紙を見せて、その通りを動作でやれるかどうかをみます。	
10 文章(1点)	なにか文章を書いてくださいと指示します。	
11 図形(1点)	下の図を、手本として示して、それをみながら、同じ図を描いてもらいます。 	
計		

認知症治療薬服用の有無(把握できる範囲で構いません)

(注) 認知症治療薬とは、アリセプト[®]、レミニール[®]、イクセロン[®]パッチ/リバスタッチ[®]パッチ、メモリー[®]を指します。

- 通所リハ開始前(いずれかに○)
- ・ あり → 服用に
 - アリセプト
 - レミニール
 - イクセロンパッチ
 - リバスタッチパッチ
 - メモリー
 - ・ なし
 - ・ 不明

認知症短期集中リハ開始時点(通所リハビリテーション開始時点)の調査票(その4)

それぞれの項目に○をつけてください

項目	状況					
		思わない	たまに思う	時々思う	よく思う	いつも思う
介護負担	1 介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうことがありますか	0	1	2	3	4
	2 介護を受けている方のそばにいと腹が立つことがありますか	0	1	2	3	4
	3 介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか	0	1	2	3	4
	4 介護を受けている方のそばにいと、気が休まらないと思いますか	0	1	2	3	4
	5 介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことがありますか	0	1	2	3	4
	6 介護を受けている方が家族にいと、友達が自宅によびたくてもよべないと思ったことがありますか	0	1	2	3	4
	7 介護をだれかに任せてしまいたいと思うことがありますか	0	1	2	3	4
	8 介護を受けている方に対して、どうしていいかわからないと思うことがありますか	0	1	2	3	4
	合計(介護負担尺度)					

ご記入者名 _____ * ご利用者様との属性 _____

利用者番号: _____ 施設名: _____

*施設の方へ
全老健へはご記入者名を消したものを提出ください。

「チェックシート」の入力について(説明)

シートは1枠で1回実施分です。

認知症短期集中リハを1回実施するごとに、日付を記入して、1人につき1枠を作成します。
実施回数分、枠を追加して入力して下さい。
その回のリハビリの中で、主な活動(最大3つまで)を選び、チェックします。
それぞれの活動について、目的、結果をチェックします。

認知症短期集中リハビリテーション（入カ例）

施設名 A老健施設

利用者通し番号 3

日付	場所	目的	活動				備考	担当
			予定の活動	変更理由	実際の活動			
10/22	1階 学習室	見当識の向上	見当識訓練		見当識訓練			
		記憶力の改善	学習(訓練)療法	不穩	学習(訓練)療法			
		注意・集中力の改善	記憶の訓練	拒否	記憶の訓練			
		気分の発散	作業療法	傾眠	作業療法			
			運動療法	集中力の低下	運動療法			
			回想法		回想法			
10/24	3階 作業室	見当識の向上	見当識訓練		見当識訓練			
		記憶力の改善	学習(訓練)療法	不穩	学習(訓練)療法			
		注意・集中力の改善	記憶の訓練	拒否	記憶の訓練			
		気分の発散	作業療法	傾眠	作業療法			
			運動療法	集中力の低下	運動療法			
			回想法		回想法			
/		見当識の向上	見当識訓練		見当識訓練			
		記憶力の改善	学習(訓練)療法	不穩	学習(訓練)療法			
		注意・集中力の改善	記憶の訓練	拒否	記憶の訓練			
		気分の発散	作業療法	傾眠	作業療法			
			運動療法	集中力の低下	運動療法			
			回想法		回想法			

↓
実施回数分、下に追加して入力して下さい。

利用者番号:

要介護度:

施設名:


自立・介護 状況	現在の評価及び目標					項目	状況	現在の評価及び目標				
	自 立	見 守 り	一 部 介 助	全 介 助	行 わ ず			使用用具 杖・装具・歩 行器・車椅子 など	介護内容 つたい・もたれ等	常 に	よ く あ る	と き に
日常生活・ 社会活動	トイレへの 移動・行為	3	2	1	0			物をなくす、置き場所を間違える、物を隠す	3	2	1	0
	車イスへの移動	3	2	1	0			昼間寝てばかりいる	3	2	1	0
	階段昇降	3	2	1	0			介護拒否	3	2	1	0
	歩行	3	2	1	0			同じことを何度も訊く	3	2	1	0
	食事	3	2	1	0			暴言	3	2	1	0
	排泄(尿)	3	2	1	0			言いがかりをつける	3	2	1	0
	排泄(便)	3	2	1	0			場違いな、季節外れの服装をする	3	2	1	0
	整容	3	2	1	0			物をため込む	3	2	1	0
	更衣	3	2	1	0			日常的な物事に関心を示さない	3	2	1	0
	入浴	3	2	1	0			昼夜逆転	3	2	1	0
	ADL合計							同じ動作をいつまでも繰り返す	3	2	1	0
	職員との会話	3	2	1	0			物を散らかす	3	2	1	0
	入所者との会話	3	2	1	0			徘徊	3	2	1	0
身の回りの片づけ	3	2	1	0			その他(具体的に)	3	2	1	0	
リクエション	3	2	1	0			その他(具体的に)	3	2	1	0	
外出	3	2	1	0			その他(具体的に)	3	2	1	0	
活動合計							周辺症状合計(DBD i13)					
生活行為	自立・介護 状況					現在の評価及び目標						
	項目	自 発 的	促 し	無 関 心								
	起床	2	1	0								
	挨拶	2	1	0								
	食事	2	1	0								
	排泄	2	1	0								
リハ、レク	2	1	0									
合計(意欲の指標)												

認知症短期集中リハ終了時(通所リハ開始3ヵ月後)の調査票(その2)

改訂長谷川式スケール		点数	
1. 年齢	お歳はいくつですか？(2年までの誤差は正解)	0 1	
2. 日時の見当識	今日は何年の何月何日ですか？何曜日ですか？(年、月、日、曜日が正解でそれぞれ1点づつ)	年	0 1
		月	0 1
		日	0 1
		曜日	0 1
3. 場所の見当識	私たちが今いるところはどこですか？(自発的にできれば2点 5秒おいて、家ですか？ 病院ですか？ 施設ですか？の中から正しい選択をすれば1点)	0 1 2	
4. 3つの言葉の記銘	これから言う3つの言葉を言ってみて下さい。あとでまた聞きますのでよく覚えておいてください。 (以下の系列のいずれか1つで、採用した系列に○印をつけておく) 1: a) 桜 b) 猫 c) 電車 2: a) 梅 b) 犬 c) 自転車	0 1	
		0 1	
		0 1	
5. 計算	100から7を順番に引いてください。 (「100引く7は？ それからまた7を引くと？」と質問する。最初の答えが不正解の場合は打ち切る)	(93) 0 1 (86) 0 1	
6. 数字の逆唱	私がこれから言う数字を逆から言って下さい。 (6-8-2, 3-5-2-9を逆に言ってもらう。3桁逆唱に失敗したら打ち切る)	2-8-6 0 1 9-2-5-3 0 1	
7. 遅延再生	先ほど覚えてもらった言葉をもう一度言ってみて下さい。 (自発的に回答があれば各2点。 もし回答がない場合以下のヒントを与え、正解であれば1点) a) 植物 b) 動物 c) 乗り物	a: 0 1 2 b: 0 1 2 c: 0 1 2	
8. 物品記銘	これから5つの品物を見せます。それを隠しますので何があったか言って下さい。(時計、鍵、タバコ、ペン、硬貨など必ず相互に無関係なもの)	0 1 2 3 4 5	
9. 言葉の流暢性	知っている野菜の名前をできるだけ多く言って下さい。 (答えた野菜の名前を右欄に記入する。途中で詰まり、約10秒間待っても出ない場合にはそこで打ち切る) 0~5=0点、6=1点、7=2点、8=3点、9=4点、10=5点	0 1 2 3 4 5	
計			

NMスケール	0点	1点	3点	5点	7点	9点	10点	点数
1. 家事・身辺整理	不能	殆ど不能 ・手の届く範囲の物は取れる	ごく簡単な家事、整理も不完全 ・おしぼりを渡せば顔を拭くことは出来る	簡単な買い物も小確か、ごく簡単な家事、整理のみ ・声がけにて、ペット周辺の整理ができる	簡単な買い物可能 留守番、複雑な家事、整理は困難 ・食器が洗える ・エレベーターの操作が一人で可能	やや不確実だが 買い物、留守番家事などを一応まかせられる ・部屋のそうじ、自分の衣類の整理ができる	正常	
2. 関心・意欲・交流	無関心、全く何もしない	周囲に多少関心あり ぼんやりと無為に過ごすことが多い	自らは何もしないが指示されれば簡単なことはしようとする ・手渡せば雑誌のグラビア等を見る	習慣的なことはある程度自らする。気が向けば人に話しかける ・話しかけられれば話はずむ ・声がけにて行事に参加する	運動、家事、仕事、趣味など気が向けばする 必要なことは自ら話しかける	やや積極性の低下がみられるがほぼ正常 ・周囲の人と雑談ができる ・趣味を持っている ・家族や同室者の行動を知っている		
3. 会話	呼びかけに無反応	呼びかけに一応反応するが、自ら話すことはない	ごく簡単な会話のみ可能 辻つまの合わないことが多い ・有難う、ごちそうさま、おはよう等が言える	簡単な会話は可能であるが、辻つまが合わないことがある	話し方はなめらかではないが、簡単な会話は通じる ・相手の話が理解できる	日常会話はほぼ正常、複雑な会話がやや困難		
4. 記銘・記憶	不能	新しいことは全く覚えられない 古い記憶が稀にある ・名前が言える	最近の記憶は殆どない、古い記憶が多少残存 生年月日不確か 出生地を覚えている	最近の出来事との記憶困難、古い記憶の部分欠落 ・生年月日正答	最近の出来事をよく忘れる、古い記憶はほぼ正常 ・物をしまし忘れて騒ぐ ・服薬の自己管理が難しい	最近の出来事をときどき忘れる ・一人で受診できるが診察日を時に忘れる		
5. 見当識	全くなし	殆どなし 人物の弁別困難 ・男女の区別は出来る	失見当識著明 家族と他人は区別出来るが誰であるかわからない ・自分の年齢をかけた離れた歳で答える	失見当がかなりあり(日時、年齢場所など不確か道に迷う) ・看護婦、医者、寮母の見分けが出来る	ときどき場所を間違えることあり ・目的の場所へ行こうとするが時に迷う	ときどき日時を間違えることあり		
計								

認知症短期集中リハ終了時(通所リハ開始3ヵ月後)の調査票(その3)

MMS(Mini-Mental State)		点数
1 見当識(5点)	今年は何年ですか 今日は何月ですか 今日は何日ですか 今の季節は何ですか 今日は何曜日ですか	
2 見当識(5点)	ここは何県ですか ここは何市ですか この施設名は何ですか ここは何階ですか ここは何地方ですか	
3 記名(3点)	ゆつくりと、互いに関連のない3語、たとえば「みかん、電車、サル」といつてきかせ、直後にその通りに繰り返して言えば3点とします。その単語を覚えておくよういいます。	
4 計算(5点)	100から順々に、7を引くことを5回繰り返させる (93 86 79 72 65)	
5 想起(3点)	約5分たってから、「さっきいった三つの言葉を思い出していつて下さい」と尋ねます。正しく3つ思い出せば、3点とします。	
6 命名(2点)	時計を見せて、これは何ですかと聞く 鉛筆を見せて、これは何ですかと聞く	
7 復唱(1点)	「ちりもつもれば、やまとなる」をゆつくりいつて、同じように繰り返すようにいいます。	
8 三段階口頭命令(3点)	紙切れを机の上に並べておいてから、ゆつくり指示します 「右手でこの紙を取ってください」 「それを半分に折りたたんでください」 「机の上に置いてください」	
9 書字命令(1点)	「目を閉じてください」とかいてある紙を見せて、その通りを動作でやれるかどうかをみます。	
10 文章(1点)	なにか文章を書いてくださいと指示します。	
11 図形(1点)	下の図を、手本として示して、それをみながら、同じ図を描いてもらいます。 	
計		

認知症治療薬服用の有無(把握できる範囲で構いません)

(注) 認知症治療薬とは、アリセプト®、レミニール®、イクセロン®パッチ/リバスタッチ®パッチ、メモリー®を指します。

- 通所リハ開始前(いずれかに○)
- ・ あり → 服用に☑ アリセプト
 - ・ なし レミニール
 - ・ 不明 イクセロンパッチ
 - リバスタッチパッチ
 - メモリー
- 通所リハ期間中(いずれかに○)
- ・ あり → 服用に☑ アリセプト
 - ・ なし レミニール
 - ・ 不明 イクセロンパッチ
 - リバスタッチパッチ
 - メモリー

この方は、調査終了後の時点で、どこで生活していらっしゃいますか。(いずれかに○)

- 自宅
- 介護老人保健施設
- 居住系施設(注)
- グループホーム
- 介護老人福祉施設
- 病院
- その他(具体的に: _____)

(注) 居住系施設とは、ケアハウス・有料老人ホーム・軽費老人ホーム・養護老人ホーム・高齢者専用優良賃貸住宅を指します。

認知症短期集中リハ終了時(通所リハ開始3ヵ月後)の調査票(その4)

それぞれの項目に○をつけてください

項目	状況					
		思わない	たまに思う	時々思う	よく思う	いつも思う
介護負担	1 介護を受けている方の行動に対し、困ってしまうことがありますか	0	1	2	3	4
	2 介護を受けている方のそばにいと腹が立つことがありますか	0	1	2	3	4
	3 介護があるので、家族や友人と付き合いづらくなっていると思いますか	0	1	2	3	4
	4 介護を受けている方のそばにいと、気が休まらないと思いますか	0	1	2	3	4
	5 介護があるので、自分の社会参加の機会が減ったと思うことがありますか	0	1	2	3	4
	6 介護を受けている方が家族にいと、友達が自宅によびたくてもよべないと思ったことがありますか	0	1	2	3	4
	7 介護をだれかに任せてしまいたいと思うことがありますか	0	1	2	3	4
	8 介護を受けている方に対して、どうしていいかわからないと思うことがありますか	0	1	2	3	4
合計(介護負担尺度)						

ご記入者名 _____ * ご利用者様との属性 _____

* 調査開始時と同じ方がご記入ください

利用者番号: _____ 施設名: _____

* 施設の方へ
全老健へはご記入者名を消したものを提出ください。

通所リハビリテーションにおける認知症短期集中リハビリテーションの有用性に関する調査 サービス利用状況票

利用者番号 _____ 施設名 _____
 調査開始日 _____ 記入者名 _____ 職種 _____

該当する番号を○で囲い、下線部には具体的な数字等をご記入下さい。
 書ききれない場合は、特記事項の欄にご記入下さい。


1	認知症短期集中リハビリテーション実施の有無		1.実施する ・ 2.実施しない	
2	①	認知症短期集中リハビリテーション実施加算算定の有無	1.算定する ・ 2.算定しない	
	②	加算の算定をする場合の算定期間 (一部の期間算定の場合は算定期間をご記入下さい)	1. 調査期間中、全て算定 2. 調査期間中、一部の期間算定 (算定期間: ___月___日～___月___日)	
3	1週間当たりの通所リハビリテーション利用回数及びその内、認知症短期集中リハビリテーションの実施回数をご回答ください。②～④は実施回数が複数回変更された場合にご記入下さい。 ※実施回数はやむを得ない事情で中止した場合等は考慮せず、予定していた回数をご記入下さい。		①	通所リハビリテーション回数 ___回/週 内、認知症短期集中リハビリ回数 ___回 期間: ___月___日～___月___日
			②	通所リハビリテーション回数 ___回/週 内、認知症短期集中リハビリ回数 ___回 期間: ___月___日～___月___日
			③	通所リハビリテーション回数 ___回/週 内、認知症短期集中リハビリ回数 ___回 期間: ___月___日～___月___日
			④	通所リハビリテーション回数 ___回/週 内、認知症短期集中リハビリ回数 ___回 期間: ___月___日～___月___日
4	調査期間中、短期入所療養介護若しくは短期入所生活介護を利用した場合は、利用したサービスとその期間をご回答ください。②～④は複数回使用された場合にご記入下さい。		①	1.短期入所療養介護 ・ 2.短期入所生活介護 期間: ___月___日～___月___日
			②	1.短期入所療養介護 ・ 2.短期入所生活介護 期間: ___月___日～___月___日
			③	1.短期入所療養介護 ・ 2.短期入所生活介護 期間: ___月___日～___月___日
			④	1.短期入所療養介護 ・ 2.短期入所生活介護 期間: ___月___日～___月___日
調査期間中の居宅サービスの利用状況(概ねの利用回数)についてご回答下さい。②～④は使用頻度が複数回変更された場合にご記入下さい。				
5	(1)	訪問介護	① ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	② ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)
		③ ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	④ ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	
	(2)	訪問入浴介護	① ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	② ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)
		③ ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	④ ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	
	(3)	訪問看護	① ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	② ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)
		③ ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	④ ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	
	(4)	訪問リハ	① ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	② ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)
		③ ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	④ ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	
	(5)	通所介護	① ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	② ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)
		③ ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	④ ___回/週 (期間: ___月___日～___月___日)	

特記事項がございましたらご記入下さい。
(例: ○月○日～○月○日入院、△月△日～△月△日老健入所等)

特記事項:

乱数表

54	51	56	53	55	50	52
19	16	21	18	20	15	17
12	9	14	11	13	8	10
89	86	91	88	90	85	87
26	23	28	25	27	22	24
47	44	49	46	48	43	45
40	37	42	39	41	36	38
33	30	35	32	34	29	31
68	65	70	67	69	64	66
61	58	63	60	62	57	59
96	93	98	95	97	92	94
75	72	77	74	76	71	73
82	79	84	81	83	78	80
5	2	7	4	6	1	3

 公益社団法人全国老人保健施設協会

〒105-0014

東京都港区芝2-1-28 成旺ビル7階

TEL : 03-3455-4165 FAX : 03-3455-4172